

多文化共生に係る日本人市民意識調査

報 告 書

令和5年7月

新 城 市

目次

I	調査概要	2
II	調査結果（住民）	6
1	年齢	7
2	性別	7
3	住んでいる地域	8
4	外国人市民との付き合いはありますか（ありましたか）？	9
4-1	付き合いがある（あった）のはどういうときですか？	10
5	地域の外国人市民との関係で困った経験はありますか？	11
6	地域や職場に外国人市民が増えることで、地域社会にどのような影響があると思いますか？	12
7	同じ地域で外国人市民と生活していくうえで大切なことは何だと思いますか？	14
8	日本人から外国人市民に対する偏見や差別があると感じますか？	15
8-1	どのような場面で偏見や差別を感じますか？	16
9	地域で外国人市民と共に暮らすために外国人市民に望むことは何ですか？	17
10	外国人市民と共に暮らすために、自分ができることは何だと思いますか？	18
11	外国人市民と今後どのような交流をしたいと思いますか？	20
12	地域で外国人と共に暮らすためにどのような取組が必要だと思いますか？	22
III	調査票（住民）	29
IV	調査結果（行政区長）	33
1	行政区	34
2	貴行政区域内に外国人市民は住んでいますか？	34
3	貴行政区に外国人市民は加入していますか？	35
3-1	何世帯くらい加入していますか？	36
4	外国人市民の対応について、困っていること（または過去に困った経験）はありますか？	37
5	外国人市民に関する内容で、地域住民から意見や苦情などはありますか？または過去にありましたか？	38
6	地域で外国人市民と共に暮らすためにどのような取組が必要だと思いますか？	40
V	調査票（行政区長）	44

I 調査概要

1 目的

新城市の多文化共生施策を推進していく上での参考とするため、日本人市民の多文化共生に係る意識や現状を把握する調査を実施します。

2 対象

(1) アンケート方式による調査

① 住民

無作為抽出による高校生以上の日本人住民1,000人（令和5年3月1日時点）

② 行政区長

新城市の行政区長136人（令和5年4月1日時点）

(2) ヒアリング方式による調査

外国人集住地域等の行政区長7人

3 期間

(1) アンケート方式による調査

① 住民 令和5年4月26日～5月12日

② 行政区長 令和5年5月16日～6月2日

(2) ヒアリング方式による調査 令和5年6月14日～6月29日

4 方法

(1) アンケート方式による調査

① 住民

対象へ調査票及び二次元コード付きの調査依頼状を郵送し、調査票又はインターネット上で回答を回収

② 行政区長

区長宛文書を通じて対象へ調査票及び二次元コード付きの調査依頼状を送付し、調査票又はインターネット上で回答を回収

(2) ヒアリング方式による調査

外国人集住地域等の行政区長と連絡を取り、了承を得た行政区長と対面又は電話でヒアリングを実施

5 主な項目

(1) アンケート方式による調査

① 住民

- ・ 回答者属性

- ・ 外国人市民との付き合いなどについて
- ・ 外国人市民と地域社会について
- ・ 外国人市民に対する偏見や差別について
- ・ 外国人市民との今後について

② 行政区長

- ・ 行政区
- ・ 行政区内の外国人市民について
- ・ 外国人市民に関する困りごと、地域住民からの苦情などについて
- ・ 外国人市民との共生について

(2) ヒアリング方式による調査

- ・ 行政区
- ・ 外国人市民に関する困りごと、地域住民からの苦情などについて
- ・ 困りごとや苦情等への対策について
- ・ 外国人市民との共生について

6 回収率等

(1) アンケート方式による調査

① 住民

送付数	回答者数	回収率	回答方法	
		回答者数/送付数	紙	オンライン
1,000	353	35.30%	278	75

② 行政区長

送付数	回答者数	回収率	回答方法	
		回答者数/送付数	紙	オンライン
136	118	86.76%	100	18

(2) ヒアリング方式による調査

回答者数：7

回答者行政区：本町、弁天、川田、上市場東住宅、平井、大野、鴨ヶ谷

7 報告書の標記について

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答の設問は、回答が2つ以上となることがあるため、各選択肢の構成比の合計は100%を超えることもあります。

- 図表中の「n」とは、当該設問の対象となる人数を表します。そのため、特定の選択肢を選んだ方だけを対象とする設問については、アンケートの回収数と「n」の数値は異なる場合があります。
- 住民については、設問1「年齢」、設問2「性別」、設問3「住んでいる地域」を除き、各設問において回答者全体の集計と年代別の集計をしています。
- 報告書中の「外国人住民」とは、市内に在住する外国人のことを指し、「外国人市民」とは、市内に在住する外国人または市内に在勤、在学する外国人のことを指します。

II 調査結果

(住民)

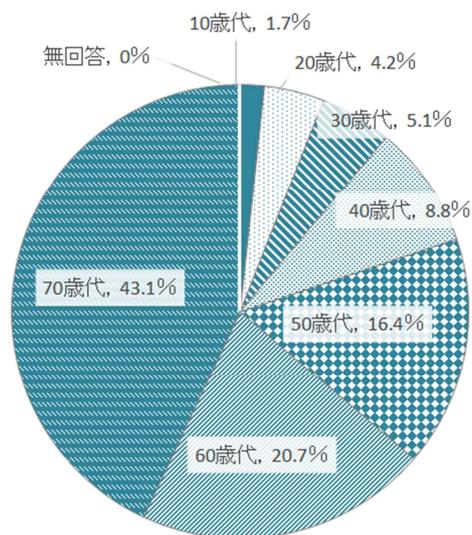
回答者属性

1 年齢

各年代の回答者数は、「70歳代」が43.1%と最も多く、次いで「60歳代」が20.7%、「50歳代」が16.4%、「40歳代」が8.8%、「30歳代」が5.1%、「20歳代」が4.2%、「10歳代」が1.7%となっています。若年層の回答者数及びその比率が少ないが、令和5年5月1日現在の日本人住民数と比較すると、年代別の回答者数の割合が実際の住民数の割合と大きく乖離しているわけではないことがわかります。

項目	n=353		参考(R5. 5. 1現在)	
	人(回答者数)	% (回答者数/回答者数合計)	日本人住民数	%
10歳代	6	1.7%	1,847	4.9%
20歳代	15	4.2%	2,964	7.8%
30歳代	18	5.1%	3,459	9.1%
40歳代	31	8.8%	5,283	13.9%
50歳代	58	16.4%	5,328	14.0%
60歳代	73	20.7%	6,355	16.7%
70歳代以上	152	43.1%	12,799	33.7%
無回答	0	0.0%	-	-
合計	353		38,035	

※15歳以上の人口

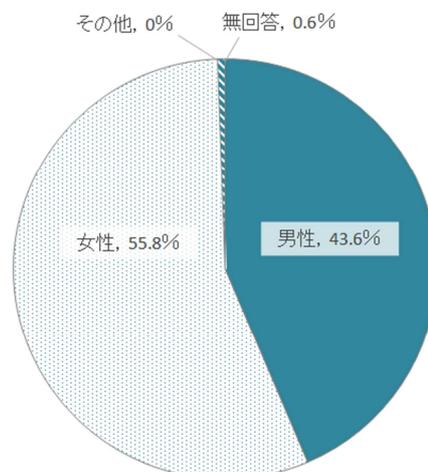


2 性別

「男性」が43.6%、「女性」が55.8%となっています。

項目	n=353		参考(R5. 5. 1現在)	
	人	%	日本人住民数	%
男性	154	43.6%	18871	0.496148
女性	197	55.8%	19164	0.503852
その他	0	0.0%	-	-
無回答	2	0.6%	-	-
合計	353		38035	

※15歳以上の人口

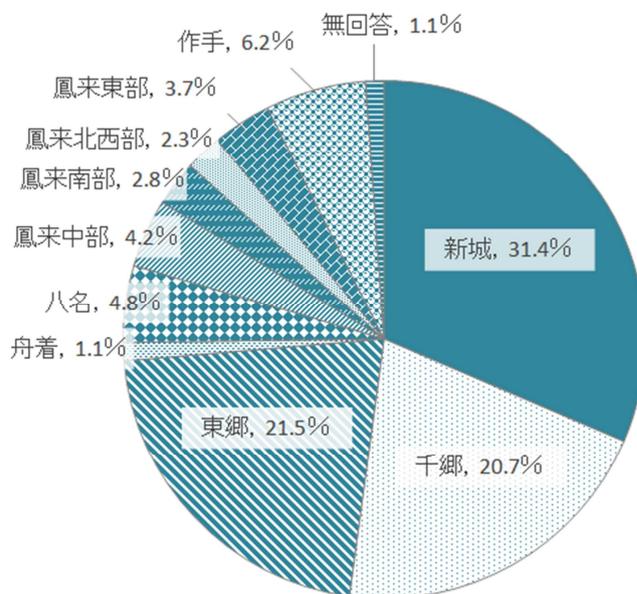


3 住んでいる地域

回答者の住んでいる地域は「新城」が31.4%と最も多く、「東郷」が21.5%、「千郷」が20.7%、「作手」が6.2%と続いています。

n=353

項目	人	%	参考(R5. 5. 1現在)	
			日本人 住民数	%
新城	111	31.4%	6,115	14.5%
千郷	73	20.7%	10,581	25.0%
東郷	76	21.5%	8,196	19.4%
舟着	4	1.1%	1,325	3.1%
八名	17	4.8%	4,617	10.9%
鳳来中部	15	4.2%	2,844	6.7%
鳳来南部	10	2.8%	1,274	3.0%
鳳来北西部	8	2.3%	2,165	5.1%
鳳来東部	13	3.7%	3,050	7.2%
作手	22	6.2%	2,125	5.0%
無回答	4	1.1%	-	-
合計	353		42,292	



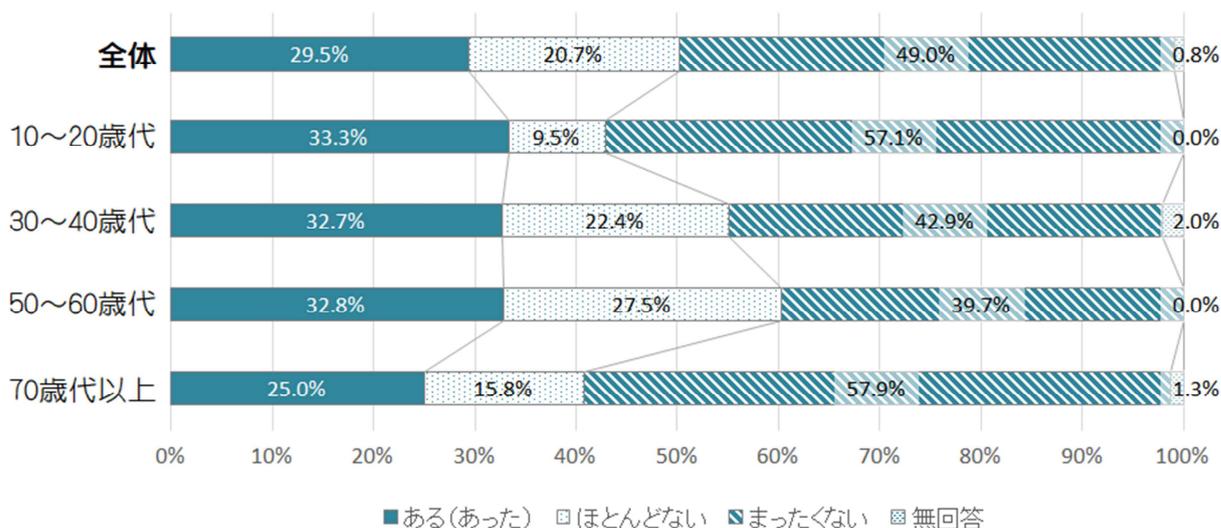
外国人市民との付き合いなどについて

4 外国人市民との付き合いはありますか（ありましたか）？

全体では、付き合いが「まったくない」が49.0%と最も多く、「ある（あった）」が29.5%、「ほとんどない」が20.7%となっています。

年代別に見ると、どの年代においても「まったくない」が最も多く、次いで「ある（あった）」、「ほとんどない」の順となっています。特に10～20歳代及び70歳代以上では、「まったくない」が5割強となっています。

項目	n= 353		n= 21		n= 49		n= 131		n= 152	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ある（あった）	104	29.5%	7	33.3%	16	32.7%	43	32.8%	38	25.0%
ほとんどない	73	20.7%	2	9.5%	11	22.4%	36	27.5%	24	15.8%
まったくない	173	49.0%	12	57.1%	21	42.9%	52	39.7%	88	57.9%
無回答	3	0.8%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%	2	1.3%
合計	353		21		49		131		152	



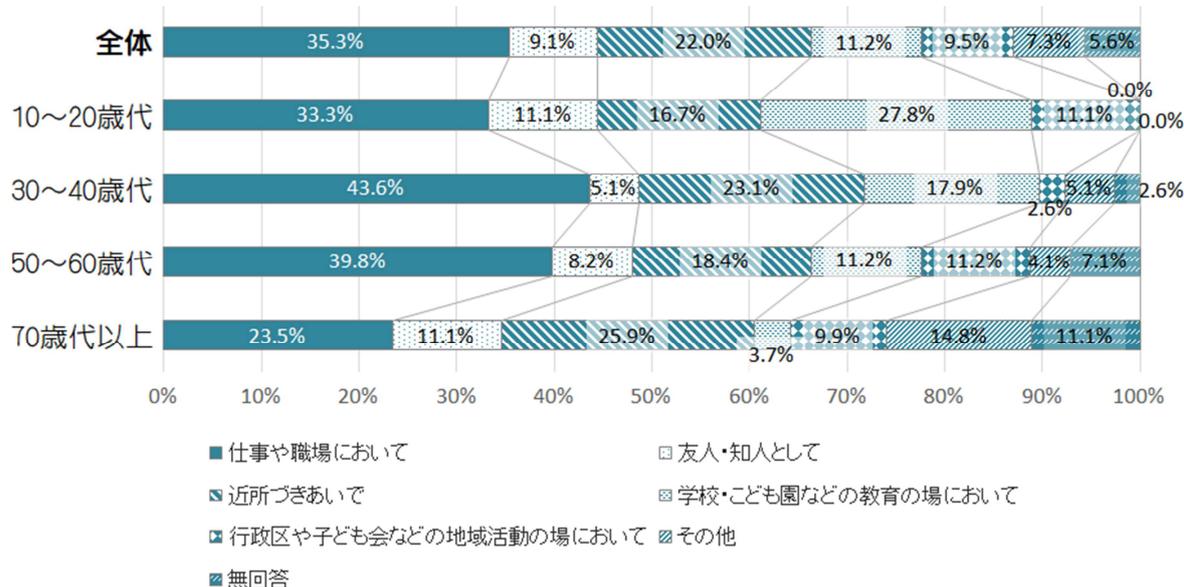
(※4で「ある(あった)」又は「ほとんどない」と答えた方)

4-1 付き合いがある(あった)のはどういうときですか？ (複数回答)

全体では、「仕事や職場において」が35.3%と最も多く、次いで「近所づきあいで」が22.0%、「学校・こども園などの教育の場において」が11.2%と続いています。

年代別に見ると、10歳代～60歳代は「仕事や職場において」が最も多く、70歳代以上では「近所づきあいで」が最も多くなっています。

項目	n=224		n=9		n=28		n=79		n=64	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
仕事や職場において	82	35.3%	6	33.3%	17	43.6%	39	39.8%	19	23.5%
友人・知人として	21	9.1%	2	11.1%	2	5.1%	8	8.2%	9	11.1%
近所づきあいで	51	22.0%	3	16.7%	9	23.1%	18	18.4%	21	25.9%
学校・こども園などの教育の場において	26	11.2%	5	27.8%	7	17.9%	11	11.2%	3	3.7%
行政区や子ども会などの地域活動の場において	22	9.5%	2	11.1%	1	2.6%	11	11.2%	8	9.9%
その他	17	7.3%	0	0.0%	2	5.1%	4	4.1%	12	14.8%
無回答	13	5.6%	0	0.0%	1	2.6%	7	7.1%	9	11.1%
合計	232		18		39		98		81	



「その他」の内容

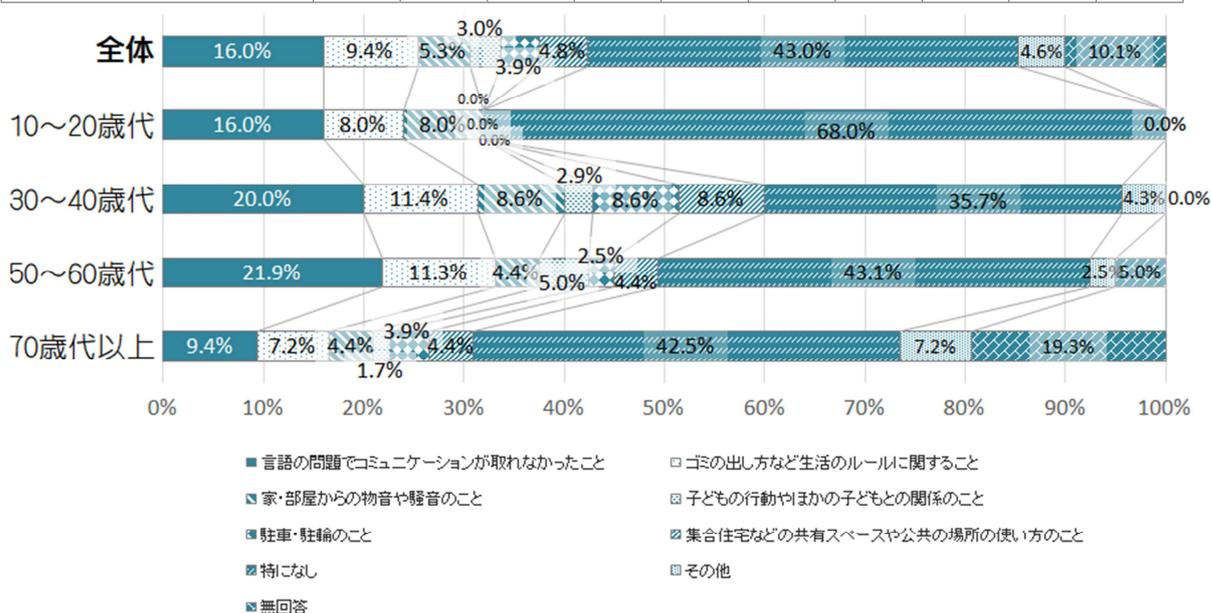
ホームステイの受入れをした；仕事の関係で40年の付き合い；交通立番時（毎日）にあいさつをしていた；公園での散歩中；犬の放し飼；外国人の来る会合に出席して；息子の嫁；孫娘の友だちとして；友人の娘さんの友だち（米国人）をホームステイさせたことがある；学生時代に留学生の方と共に学んでいました；ホームステイ先として；知人にたくさん野菜、果物、お菓子等いただいたときは友人（ブラジル）に届けています。手作りお菓子をいただくこともありました。；英会話の先生と生徒として；組の会費集金、運搬、組掃除等；息子がベトナム人女性と結婚し、孫も1人おります；あまり付き合いはありません；仕事が海外が多く、こちらから声かけることもある；塾の生徒さんで；家の前をよく歩いている

5 地域の外国人市民との関係で困った経験はありますか？ (複数回答)

全体では、「特になし」が43.0%と最も多いです。困った経験がある回答者の中では、「言語の問題でコミュニケーションが取れなかったこと」が16.0%、「ゴミの出し方など生活のルールに関すること」が9.4%、「家・部屋からの物音や騒音のこと」が5.3%、「集合住宅などの共有スペースや公共の場所の使い方のこと」が4.8%と続いています。

年代別に見ると、どの年代においても「特になし」が最も多く、特に10～20歳代においては7割近くとなっています。困った経験がある回答者の中では、どの年代においても「言語の問題でコミュニケーションが取れなかったこと」が最も多くなっています。

項目	n= 353		n= 21		n= 49		n= 131		n= 152	
	全体	10～20歳代	30～40歳代	50～60歳代	70歳代以上					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
言語の問題でコミュニケーションが取れなかったこと	70	16.0%	4	16.0%	14	20.0%	35	21.9%	17	9.4%
ゴミの出し方など生活のルールに関すること	41	9.4%	2	8.0%	8	11.4%	18	11.3%	13	7.2%
家・部屋からの物音や騒音のこと	23	5.3%	2	8.0%	6	8.6%	7	4.4%	8	4.4%
子どもの行動やほかの子どもとの関係のこと	13	3.0%	0	0.0%	2	2.9%	8	5.0%	3	1.7%
駐車・駐輪のこと	17	3.9%	0	0.0%	6	8.6%	4	2.5%	7	3.9%
集合住宅などの共有スペースや公共の場所の使い方のこと	21	4.8%	0	0.0%	6	8.6%	7	4.4%	8	4.4%
特になし	188	43.0%	17	68.0%	25	35.7%	69	43.1%	77	42.5%
その他	20	4.6%	0	0.0%	3	4.3%	4	2.5%	13	7.2%
無回答	44	10.1%	0	0.0%	0	0.0%	8	5.0%	35	19.3%
合計	437		25		70		160		181	



「その他」の内容

日本人でもルール、マナーの悪い人はおりますので何とも；外国人の方が日本人よりいい人が多い；資源ゴミ回収時に洗浄されていないことがあった；以前見えた若いブラジル人のご夫婦の方でしたが、細かいことはわからないが想いを伝えていた；ハグをすること；以前職場にいた外国人は日本語が通用した。息子の嫁も日本語が通用する。；外国人の車の運転の仕方が怖い。タバコの吸い殻を道ばたに捨てる。；地域活動で；施設に入っているのわからない；付き合いがない；組掃除に出席が少なかった；会社で一緒に働いていた人は良い人も多かったが、中には乱暴な人がいた。外国籍だからというわけではないが日本人で言うとかやくざっぽいかな！！日本人にもいるが；屋敷の庭木；犬の放し飼い；1車線の生活道路で停車させて酔っ払って寝ていた；犬を放し飼いにする；掃除；車の音

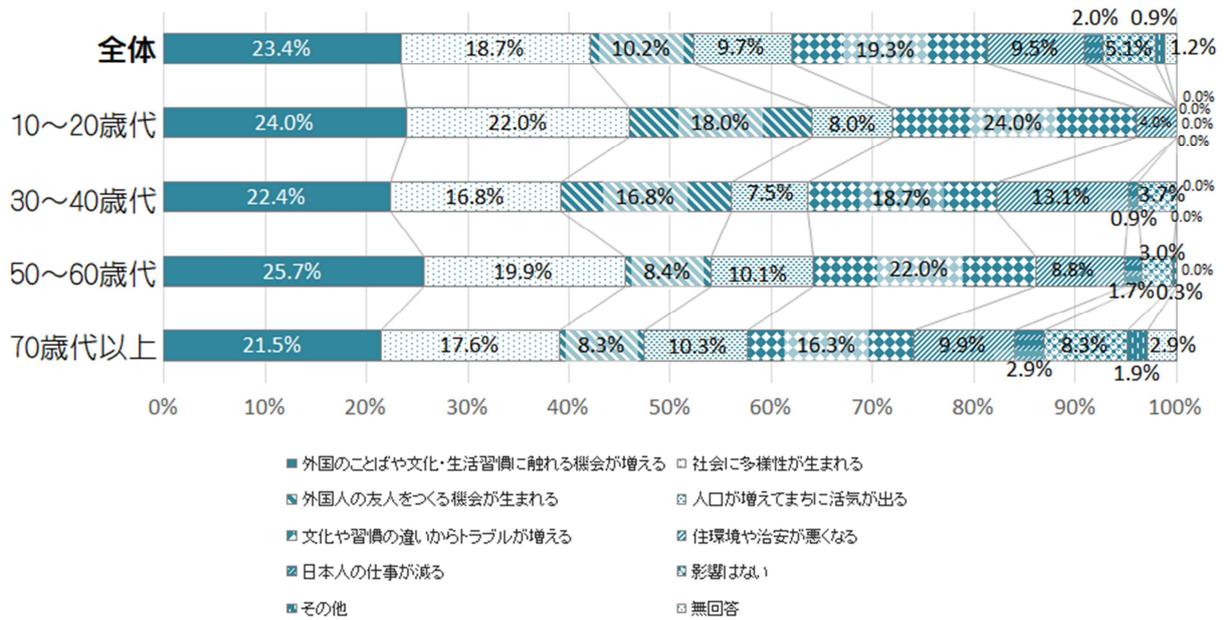
外国人市民と地域社会について

6 地域や職場に外国人市民が増えることで、地域社会にどのような影響があると思いますか？（3つ以内）

全体では、「外国のことはや文化・生活習慣に触れる機会が増える」が 23.4%と最も多いです。「社会に多様性が生まれる」、「外国人の友人をつくる機会が生まれる」、「人口が増えてまちに活気が出る」のプラスの面での回答は計 38.6%、「文化や習慣の違いからトラブルが増える」、「住環境や治安が悪くなる」、「日本人の仕事が減る」のマイナス面での回答は計 30.8%となっています。

年代別に見ると、どの年代においても「外国のことはや文化・生活習慣に触れる機会が増える」が 2 割を超えて最も多くなっています。また、どの年代においても、「社会に多様性が生まれる」と「文化や習慣の違いからトラブルが増える」はそれぞれ 2 割前後でほぼ同等となっています。

項目	n= 353		n= 21		n= 49		n= 131		n= 152	
	全体		10～20歳代		30～40歳代		50～60歳代		70歳代以上	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
外国のことはや文化・生活習慣に触れる機会が増える	179	23.4%	12	24.0%	24	22.4%	76	25.7%	67	21.5%
社会に多様性が生まれる	143	18.7%	11	22.0%	18	16.8%	59	19.9%	55	17.6%
外国人の友人をつくる機会が生まれる	78	10.2%	9	18.0%	18	16.8%	25	8.4%	26	8.3%
人口が増えてまちに活気が出る	74	9.7%	4	8.0%	8	7.5%	30	10.1%	32	10.3%
文化や習慣の違いからトラブルが増える	148	19.3%	12	24.0%	20	18.7%	65	22.0%	51	16.3%
住環境や治安が悪くなる	73	9.5%	2	4.0%	14	13.1%	26	8.8%	31	9.9%
日本人の仕事が減る	15	2.0%	0	0.0%	1	0.9%	5	1.7%	9	2.9%
影響はない	39	5.1%	0	0.0%	4	3.7%	9	3.0%	26	8.3%
その他	7	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	6	1.9%
無回答	9	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	2.9%
合計	765		50		107		296		312	



「その他」の内容

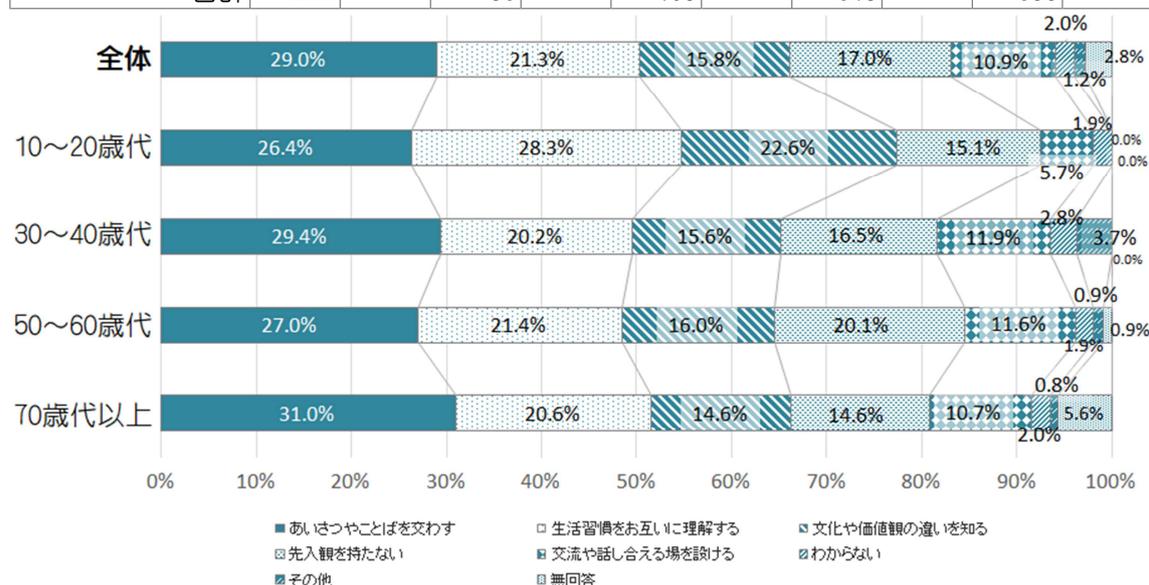
おばあちゃんも外人と仕事をしているが、日本の慣例についてわからないことは教えてと言って勉強していて大変感心しています。；いろいろな多様性が生まれたり、外国の文化、生活を知ることができるかもしれませんが、お互いなかなか近づけない気がします。；外国人の本人次第で変わっていくと思う。個人差が出る。；ほとんど接触がないから；言葉が通じないので、身振りなど大変です。；考えたことがない；人はそれぞれであるから多様性と言っても価値観文化のちがいで少々のことでトラブルにもなりかねない。10数年前イスラムの悪口を書いた大学の先生が殺された事件もあり！！一般的にはそこまではないと思うが、争い事は多様な人同士で生まれることも多い。

7 同じ地域で外国人市民と生活していくうえで大切なことは何だと思えますか？（3つ以内）

全体では、「あいさつやことばを交わす」が29.0%と最も多くなっています。次いで、「生活習慣をお互いに理解する」が21.3%、「先入観を持たない」が17.0%、「文化や価値観の違いを知る」が15.8%と続いています。

年代別に見ると、10～20歳代は「生活習慣をお互いに理解する」が28.3%と最も多く、30歳代以上は「あいさつやことばを交わす」が3割前後で最も多くなっています。

項目	n= 353		n= 21		n= 49		n= 131		n= 152	
	全体		10～20歳代		30～40歳代		50～60歳代		70歳代以上	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
あいさつやことばを交わす	242	29.0%	14	26.4%	32	29.4%	86	27.0%	110	31.0%
生活習慣をお互いに理解する	178	21.3%	15	28.3%	22	20.2%	68	21.4%	73	20.6%
文化や価値観の違いを知る	132	15.8%	12	22.6%	17	15.6%	51	16.0%	52	14.6%
先入観を持たない	142	17.0%	8	15.1%	18	16.5%	64	20.1%	52	14.6%
交流や話し合える場を設ける	91	10.9%	3	5.7%	13	11.9%	37	11.6%	38	10.7%
わからない	17	2.0%	1	1.9%	3	2.8%	6	1.9%	7	2.0%
その他	10	1.2%	0	0.0%	4	3.7%	3	0.9%	3	0.8%
無回答	23	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.9%	20	5.6%
合計	835		53		109		318		355	



「その他」の内容

お互いに気遣いすること；過度に干渉しない；普通に接すること；「住んでいる国」の文化や価値観を尊重する；外国人は日本に在ることを頭においてもらいたい；外国人市民が日本（新城）の生活習慣を理解し、文化や価値観を知る；選択肢は全て大切だと思いますが、皆それぞれ寛容になればの話だと思います；外国人が日本の文化や価値観を知る機会を設ける；選択肢全て必要。田舎は特に閉鎖的なので、関わり合いを持つ勇気と関わり合いを持ちたいと思わせるメリットが必要。

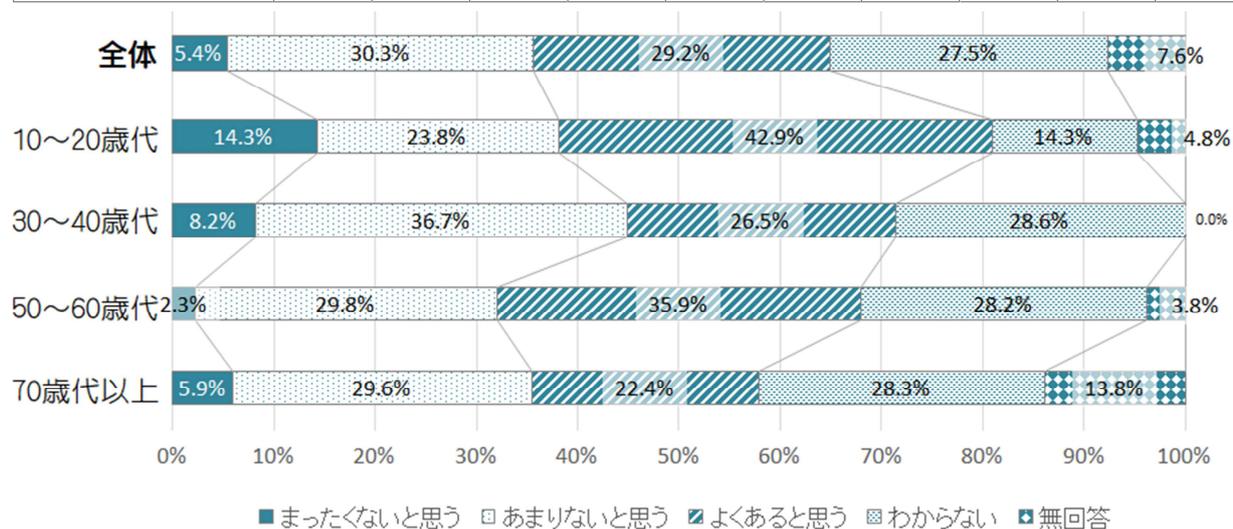
外国人市民に対する偏見や差別について

8 日本人から外国人市民に対する偏見や差別があると感じますか？

全体では、「あまりないと思う」が30.3%と最も多くなっています。「あまりないと思う」「よくあると思う」の合計は59.5%であるのに対し、「まったくないと思う」は5.4%となっています。

年代別に見ると、「あまりないと思う」「よくあると思う」の合計は10～60歳代では6割、70歳代以上では5割をそれぞれ超えています。また、「まったくないと思う」は10～20歳代で1割強、30歳代以上では1割未満となっています。

項目	n= 353 全体		n= 21 10～20歳代		n= 49 30～40歳代		n= 131 50～60歳代		n= 152 70歳代以上	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
まったくないと思う	19	5.4%	3	14.3%	4	8.2%	3	2.3%	9	5.9%
あまりないと思う	107	30.3%	5	23.8%	18	36.7%	39	29.8%	45	29.6%
よくあると思う	103	29.2%	9	42.9%	13	26.5%	47	35.9%	34	22.4%
わからない	97	27.5%	3	14.3%	14	28.6%	37	28.2%	43	28.3%
無回答	27	7.6%	1	4.8%	0	0.0%	5	3.8%	21	13.8%
合計	353		21		49		131		152	

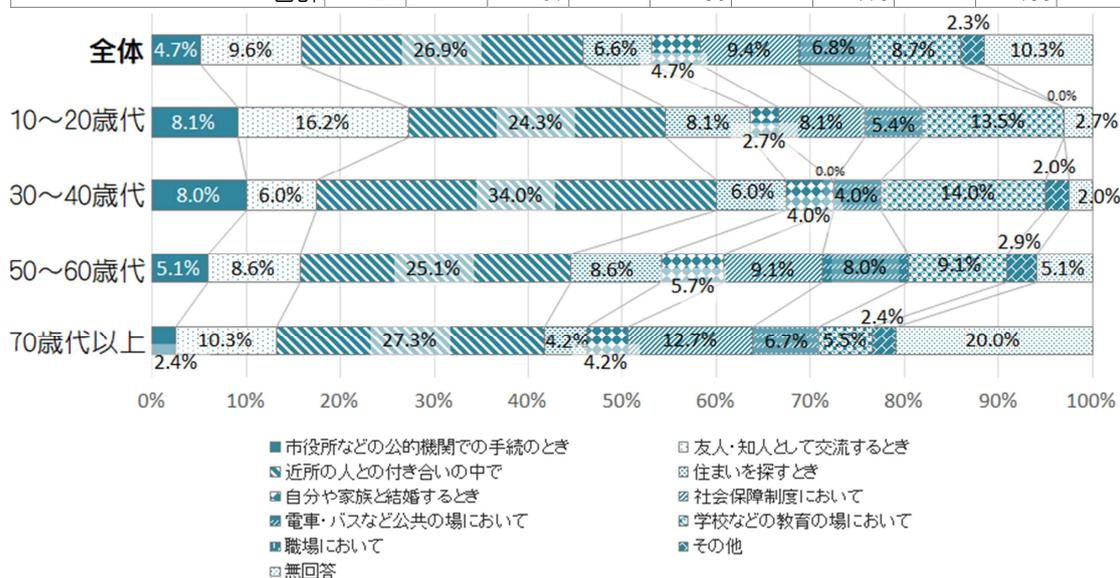


8-1 どのような場面で偏見や差別を感じますか？（複数回答）

全体では、「近所の人との付き合いの中で」が26.9%と最も多くなっています。次いで、「友人・知人として交流するとき」が9.6%、「社会保障制度において」が9.4%、「学校などの教育の場において」が8.7%と続いています。

年代別に見ると、どの年代においても「近所の人との付き合いの中で」が最も多くなっています。

項目	n = 280		n = 15		n = 31		n = 91		n = 100	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
市役所などの公的機関での手続きのとき	20	4.7%	3	8.1%	4	8.0%	9	5.1%	4	2.4%
友人・知人として交流するとき	41	9.6%	6	16.2%	3	6.0%	15	8.6%	17	10.3%
近所の人との付き合いの中で	115	26.9%	9	24.3%	17	34.0%	44	25.1%	45	27.3%
住まいを探すとき	28	6.6%	3	8.1%	3	6.0%	15	8.6%	7	4.2%
自分や家族と結婚するとき	20	4.7%	1	2.7%	2	4.0%	10	5.7%	7	4.2%
社会保障制度において	40	9.4%	3	8.1%	0	0.0%	16	9.1%	21	12.7%
電車・バスなど公共の場において	29	6.8%	2	5.4%	2	4.0%	14	8.0%	11	6.7%
学校などの教育の場において	37	8.7%	5	13.5%	7	14.0%	16	9.1%	9	5.5%
職場において	43		4		10		22		7	
その他	10	2.3%	0	0.0%	1	2.0%	5	2.9%	4	2.4%
無回答	44	10.3%	1	2.7%	1	2.0%	9	5.1%	33	20.0%
合計	427		37		50		175		165	



「その他」の内容

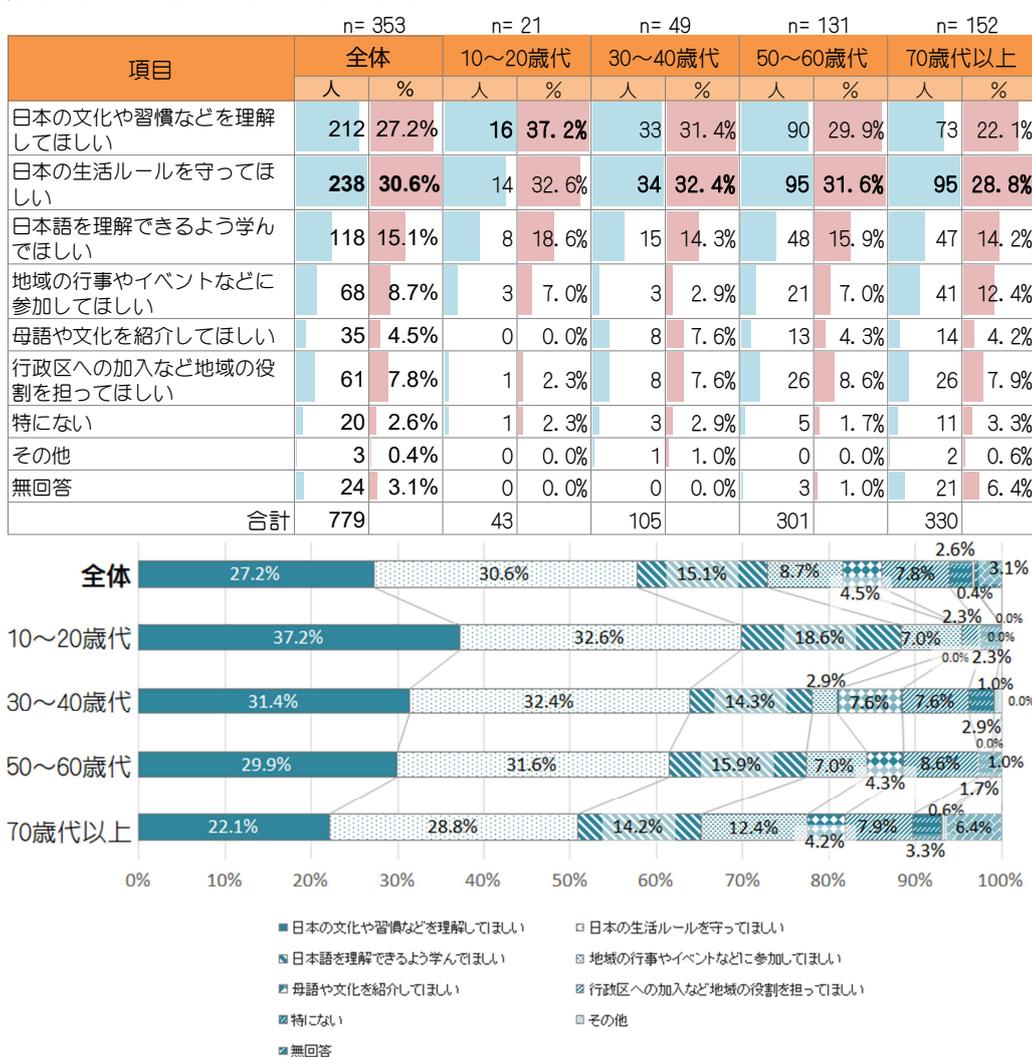
ドラッグストアなどで外国人の人たちがよく万引きをして困るという話を聞いた；学校等ではよくわかりませんが、日本人は日本人の殻の中で、また、外国の方は外国の方の殻の中で生活している方が多いと思う。少ない年数の中で急に仲良くとっても無理かと思う。；人が集まればどこでもある；直接に接しなくてはならないときに、やはり推古市引いてしまう感情で接すると思います；駐車場の使用、ゴミの捨て方（教えてあげないとわからない）；偏見や差別は私の中にもあるかもしれないがそれよりもアフリカ他の紛争地で長期に渡る飢餓に同情を感じる。昔の日本人もそうだったでしょ？という感じ；日本文化の押しつけ、日本が一番だという考え方；物の売買をするとき；病院受診時のルールを知らない；外国人への先入観や偏見の話を見たとき

外国人市民との今後について

9 地域で外国人市民と共に暮らすために外国人市民に望むことは何ですか？（3つ以内）

全体では、「日本の生活ルールを守ってほしい」が30.6%と最も多くなっており、次いで、「日本の文化や習慣などを理解してほしい」が27.2%、「日本語を理解できるように学んでほしい」が15.1%、「地域の行事やイベントなどに参加してほしい」が8.7%、「行政区への加入など地域の役割を担ってほしい」が7.8%と続いています。

年代別に見ると、10～20歳代は「日本の文化や習慣などを理解してほしい」が37.2%と最も多くなっており、30歳代以上は「日本の生活ルールを守ってほしい」が3割前後で最も多くなっています。



「その他」の内容

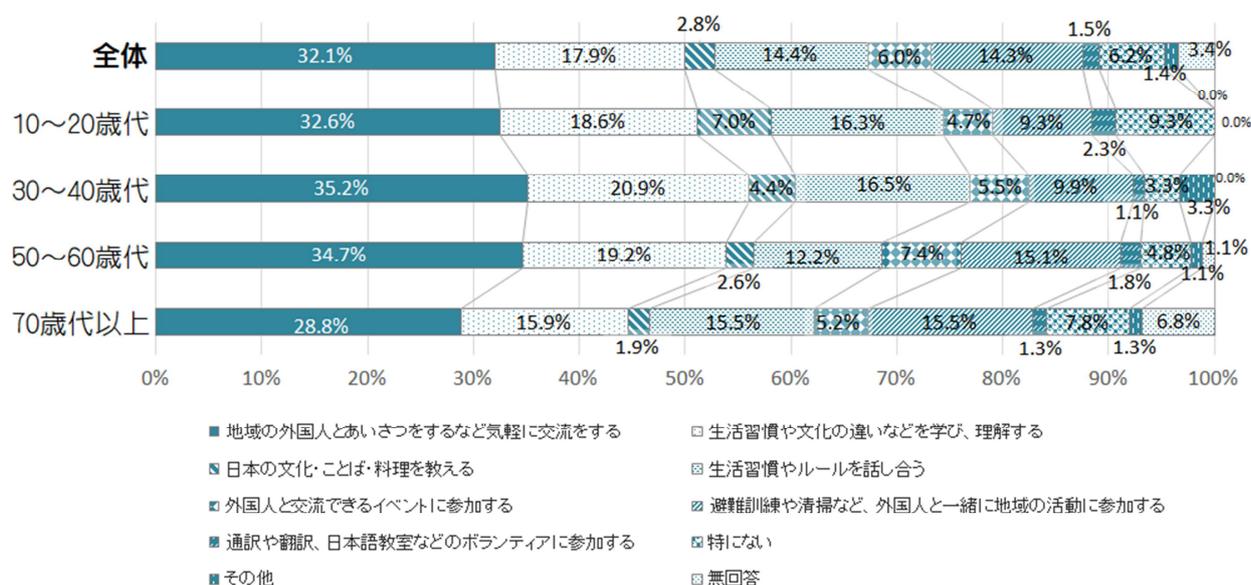
法律を守ってくれればよい；生活に日本人と同様のことを求めることはお互いに理想通りには出来ないと思います。リスクは覚悟で生活することが必要だと思います。これが偏見？（例。イスラムの方に日本の神社のお役をして…と言ってもなあ）

10 外国人市民と共に暮らすために、自分ができることは何だ と 思いますか？（3つ以内）

全体では、「地域の外国人とあいさつをするなど気軽に交流をする」が32.1%と最も多く、次いで、「生活習慣や文化の違いなどを学び、理解する」が17.9%、「生活習慣やルールを話し合う」が14.4%、「避難訓練や清掃など、外国人と一緒に地域の活動に参加する」が14.3%と続いています。

年代別に見ると、どの年代においても、「地域の外国人とあいさつをするなど気軽に交流をする」が3割前後で最も多くなっています。

項目	n= 353		n= 21		n= 49		n= 131		n= 152	
	全体		10～20歳代		30～40歳代		50～60歳代		70歳代以上	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
地域の外国人とあいさつをするなど気軽に交流をする	229	32.1%	14	32.6%	32	35.2%	94	34.7%	89	28.8%
生活習慣や文化の違いなどを学び、理解する	128	17.9%	8	18.6%	19	20.9%	52	19.2%	49	15.9%
日本の文化・ことば・料理を教える	20	2.8%	3	7.0%	4	4.4%	7	2.6%	6	1.9%
生活習慣やルールを話し合う	103	14.4%	7	16.3%	15	16.5%	33	12.2%	48	15.5%
外国人と交流できるイベントに参加する	43	6.0%	2	4.7%	5	5.5%	20	7.4%	16	5.2%
避難訓練や清掃など、外国人と一緒に地域の活動に参加する	102	14.3%	4	9.3%	9	9.9%	41	15.1%	48	15.5%
通訳や翻訳、日本語教室などのボランティアに参加する	11	1.5%	1	2.3%	1	1.1%	5	1.8%	4	1.3%
特にない	44	6.2%	4	9.3%	3	3.3%	13	4.8%	24	7.8%
その他	10	1.4%	0	0.0%	3	3.3%	3	1.1%	4	1.3%
無回答	24	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.1%	21	6.8%
合計	714		43		91		271		309	



「その他」の内容

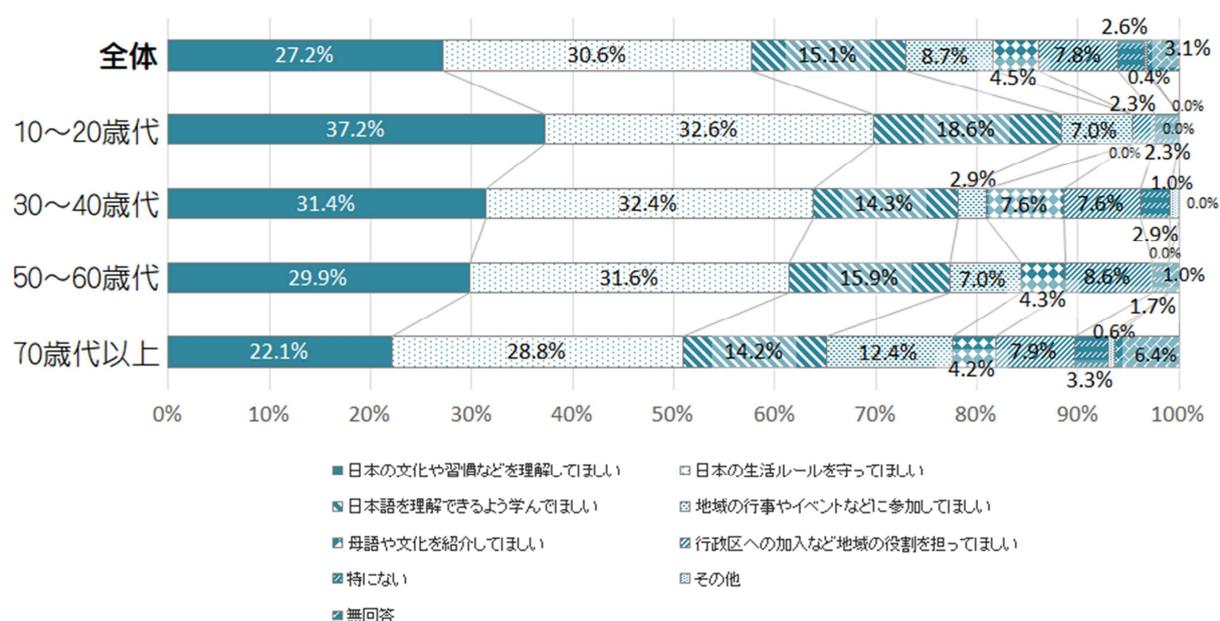
他行政区まで行って参加することはできない；私は外国に出たことがないのでわからないが、まず「言葉」「生活習慣」か。言葉については「同時翻訳機」をお互い持ったら会話がスムーズにできるのではないか。；外国人市民の元々の言葉がわからないので何もできない；言葉の理解が大切！！コミュニケーションも大切です。；わからない；私共の年齢ですとおつき合いでするのが大変。数年前にいた外国籍の人は非常に良い人。地域の行事、お手伝いを頼めば快くやってくれた。その人には今でも感謝してます。また会って昔のようにお話ししたい！！日本人よりも日本人らしい人でした。；挨拶と書いたが、体格の良い男性など怖いと思う；外国人と関わりを持ちたいと思わない

11 外国人市民と今後どのような交流をしたいと思いますか？ (3つ以内)

全体では、「外国人市民から出身国、地域の文化や習慣を学びたい」が22.9%と最も多く、次いで、「一緒に地域のイベントに参加したい」が18.6%、「交流したいとは思わない」が14.9%、「友だちづきあいをしたい」が11.8%と続いています。

年代別に見ると、10～20歳代では「友だちづきあいをしたい」が23.7%と最も多くなっており、30歳代以上では、「外国人市民から出身国、地域の文化や習慣を学びたい」が最も多くなっていきます。

項目	n= 353		n= 21		n= 49		n= 131		n= 152	
	全体	10～20歳代	30～40歳代	50～60歳代	70歳代以上					
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
外国人市民から出身国、地域の文化や習慣を学びたい	124	22.9%	8	21.1%	23	33.8%	45	22.0%	48	20.8%
一緒に地域のイベントに参加したい	101	18.6%	3	7.9%	12	17.6%	40	19.5%	46	19.9%
一緒にボランティア活動をしたい	28	5.2%	2	5.3%	3	4.4%	13	6.3%	10	4.3%
家庭のことや子育てについて相談や情報交換をしたい	32	5.9%	3	7.9%	4	5.9%	15	7.3%	10	4.3%
友だちづきあいをしたい	64	11.8%	9	23.7%	12	17.6%	18	8.8%	25	10.8%
外国人市民に日本の文化や習慣を紹介したい	52	9.6%	5	13.2%	0	0.0%	24	11.7%	23	10.0%
交流したいとは思わない	81	14.9%	5	13.2%	10	14.7%	33	16.1%	33	14.3%
その他	25	4.6%	1	2.6%	3	4.4%	9	4.4%	12	5.2%
無回答	35	6.5%	2	5.3%	1	1.5%	8	3.9%	24	10.4%
合計	542		38		68		205		231	



「その他」の内容

出身によっては、犯罪に巻き込まれる恐れを心配する；特別な交流は不要。普通に隣人として接する。；自分が高齢のため、色々なことを考える余裕がない；職場で付き合っているので交流できている；その時にならないとわからない；私は80歳を過ぎた老人で、あまり好んで付き合いたいとは思わない。外国の方達は地域の人たちから何を望んでいるのでしょうか。；特に想像できません；わからない；防災訓練など大切な事柄、協力するための訓練などは必要と思います；地区のゴミ拾いなどやらないといけないことは一緒にやってほしい；地域で自由にお互いの生活習慣・環境を理解できれば；会えば立ち話をするぐらい（買物先で）；知り合いになったらあいさつする程度；年寄りなので難しい；どちらとも思わない；今の所お組のつきあい程度でいい；今までどおり交流する；お役で社社の儀式とか話してあげたことがありますが、喜んで聞いて下さったことがあります。私は一時盆栽を多く作っていました。その様なものに興味のある方は好きです。；国籍問わず必要であれば交流する；言葉を教え合い、コミュニケーションを取れるようにしたい。それ以上のことはそれが済んでから。

12 地域で外国人と共に暮らすためにどのような取組が必要だと思いますか？（自由記述）

記述があった回答を年代別に分け、それぞれ「交流の機会」、「相互理解・共生の意識を持つ」、「外国人市民への支援」、「外国人市民への生活ルール等の周知等」、「外国人市民の受入れ等」、「その他」のカテゴリーで回答をまとめました。

《10～20 歳代》

交流の機会
<ul style="list-style-type: none">・ 交流する機会を設ける（イベントなど）。・ もっと交流の場を設ける必要があると思います。
相互理解・共生の意識を持つ
<ul style="list-style-type: none">・ お互いに知ること、お互いに理解すること。
外国人市民への支援
<ul style="list-style-type: none">・ 行政の言語支援の拡充
外国人市民への生活ルール等の周知等
<ul style="list-style-type: none">・ 人種は特に関係ないと思いますが、夜にゴミ出しをされている方やゴミの日を間違えている方がいて、鳥がゴミを荒らしていくので、ゴミ出し周辺が汚い状態がつづいています。ゴミを収集をした後も汚いので、市になんとかして頂きたいです。

《30～40 歳代》

交流の機会
<ul style="list-style-type: none">・ お互いを知る機会が大切だと思います。知らないことから起こるトラブルなどをなくし、交流する場が多くあるといいと思います。・ お互いの理解を深められるような場所、機会があると良い。・ 多文化共生社会を推進していくには、まずは今現在、どのような国の方がどれだけ新城に住んでおり、どのような生活をしているのか知る必要があると思う。近くに住んでいても全く知らないかもしれない。交流の場があると良いが、双方（日本人、外国人）が参加しやすいような取り組みをしなければならないと思う。今後、少子高齢化、人口減少が進むにつれ、外国人労働者や移民を受け入れていく必要性は大いにあると思うので。・ 日本人同士のご近所さん付き合いのような、付かず離れずのお付き合い。コミュニケーションをとること。・ 外国語が喋れないので、翻訳ツールなどを使って、うまくコミュニケーションがとれるようになるといいなと思います。・ 悪用されるデメリットはあるが、困っている外国人の方と、共生したい、助けてあげたい、単純に興味があるなど前向きな人を対象に交流する場を設けたら外国人の方もいくらか肩身の狭い思いはしなくて済むのではないかと思う。・ お互いに交流を深め、理解し合える場を定期的に行う。
相互理解・共生の意識を持つ
<ul style="list-style-type: none">・ 日本人市民は暴力的な差別をしないこと。・ 偏見を持たないこと。国が違えば文化が違います。日本人同士でも、地域や年齢で違いがある場合「若いからね」などで片付けられるけど、国が違くとそういう気持ちになる前に、拒否的な気持ちが生まれてしまってる気がします。それは、理解しようとしているか しようとしていないかだと思います。文化を知る事で偏見の壁は低くなると思っています。・ まずそもそも外国人と共に暮らしたいとか、異国で大変だから助けてあげようと行動する人が少なすぎると感じる。

外国人市民への支援

- ・個人レベルではできることに限界があると思います。できる限り、行政が主導し、外国人の方が暮らしやすいまちベースをつくる必要があります。
- ・さまざまな情報の翻訳（ポルトガル語、ベトナム語など）。
- ・コミュニケーションをとる相談窓口が明確にある（どちらともに）。
- ・行政としては各企業へ言語学習の機会を設けるアプローチ、（ほぼ全ての在日外国人の方が労働をしているから。）そこから個々のつながりができれば、外国人であるかどうかはあまり関係がなくなるのではと思う。
- ・日本語や文化を教える場所。

外国人市民への生活ルール等の周知等

- ・外国人市民はわからないならきちんと聞くこと。わからないのにすぐ「わかった。OK」と言わない。
- ・集合住宅にて、皆2台目はお金を出して借りているが、平気で毎日同じ場所に路駐している。行政も常に確認をしてほしい。
- ・特別なことは必要ないと思うが、言葉の壁からルールを理解していない、守っていないことが多いので、外国人の方にわかりやすいようにルールなどを説明する姿勢を持つことが住民にも必要だと思う。
- ・我々日本人が他国で生活する場合、その地域のルールや習慣に合わせて行動するのは当たり前のことです。言葉がわからないことは理由になりません。日本以外から来られた方々の文化、習慣は日本に合わせてカスタマイズしていただきたいと願います。ルールに則って生活されるのであれば、私は他国の方々が日本ででの生活を楽しむことをサポートできると考えています。
- ・外国の方が日本語や日本のマナーなどをもっと学べる機会があると良いと思います。（子どもの通学班に外国人の子がいるが、子どもは日本語をほぼ習得しているが、親御さんはなかなか日本語でコミュニケーションが取れないことが多いので、スマホの翻訳アプリでやりとりすることが多いため。）とても良い方々なので仲良くお互い共生できると良いと思います。
- ・言葉が通じないから言っても無駄だよ、という風に諦めてしまうのではなく、スマホの翻訳機能などを使い、少しでも地域のルールや回覧板の重要な内容（注意・警告・お願い）を母国語や英語で書いていくのも、トラブルを少なくする手段かと思います。
- ・迷惑を考える。

外国人市民の受入れ等

- ・外国の方がどのような目的で日本に来ているかはっきりと行政管理する。
- ・まずは日本が好きで外国人のみ受け入れること。そのような人は祖国の文化よりも日本の文化を尊重してくれると思います。逆にただ金目当てで来る人はただ治安を悪くするだけだと思います（もちろん全員とは思いませんが）。最近果物が盗まれるというニュースを見ると思います。親に聞くと昔はそんなことはなかったそうです。スウェーデンでは移民によるレイプが多発しているそうです。私は男なので別にいいですが、女性の方々はレイプされてもいいならご自由に受け入れてください。あと経済面ではたぶん技能実習生は労基が適用されていないと思いますが、極端に言えば技能実習生は奴隷です（もちろん全員とは思っていません）。雇用する側からすると人件費のかかる日本人より費用のかからない技能実習生を使えばいいので、日本人の働くところがどんどんなくなっていき、給料も上がりません。そのあたりをよく考えてほしいと思います。長くなりましたが、簡単に言うと、長所より短所が多いと思います。本当は国に言いたいことですが、機会がないのでここに書きました。最後にこのような機会をくださりありがとうございました。
- ・不正入国等があると知ると子どもたちの通学路に中国の方のアパートがあるので、心配になってしまふ。新都市に転入の際によく見て頂き、安心して向かい入れることができると安心です。

その他

- ・外国人市民は自分の子どもに日本語と母国語きちんと教えること。日本の生活がうまくいかなくなると帰国する際子どもが困る。
- ・何かあると「日本語がわからない」と逃げる。
- ・今、新城にどのくらいの外国人の方がいるか分からない。ほのかなどで小さくても良いのでコーナーを作ったら面白いかも。そこで顔出しなどOKな人は取材して載せるとみんな外国人の方に慣れていくのではないかなと思います。

《50～60 歳代》

交流の機会

- 一緒に仕事をする外国人の人柄がよく分かる。フィリピンの人たちはまじめで手先が器用。学ぶことも多い。コミュニケーションを取る機会があると協力し合える。
- 性別、年齢を問わず交流できる場、機会を増やす。特別な場でなく、従来行っているイベント等に招くなど。
- コミュニケーションが取れる機会を増やす。
- とにかく会話の機会がほしい。家の前も中国語、スペイン語でしゃべりながら歩いているが、声をかけにくい。
- 行政が中心となり、外国人との交流の場を定期的に設ける。
- 外観だけで判断しないように、交流の場を設ける。
- イベント等、交流する機会を増やす。
- 外国人と触れ合う行事、イベントを持つ（個人の趣味等に合わせた行事、イベントを開催する。）。
- 外国人市民との交流の場が増えると嬉しい。
- 一緒にボランティア活動をしたい。
- 外国人と接する機会がほとんどないけれど、1番は言葉の壁があり、積極的にコミュニケーションが図れないんだらうと考えます。市や地域が交流の場を作っていたら、そこに誰もが入ってきて交流を深めることができると思います。
- 相互の語学に取り組める場づくりを通じて、併せて様々なコミュニケーションが取りやすい場づくり。
- おまつりなどを通して交流を深めたい。
- 市が主催の交流イベントがあればぜひ参加したい。
- 日本人・外国人市民の交流会を開催し、互いの文化・習慣の違いを確認し深める活動促進してほしい。
- 交流の機会を増やす。
- お互いに理解を深めるため、イベントを開催するなどの取り組み。
- 文化や習慣の違いを知る場を設ける。

相互理解・共生の意識を持つ

- 「知らないうちに外国出身の人も住むようになっていた。」というのが理想だと考える。例えば、学校ではもう当たり前、肌・髪の色が違ったりカタカナの名前の生徒がクラスメイトとして過ごしている。特に問題もない。
- まずは人間同士として、気持ち・心が通い合うようにすること。
- まずは、言語の解決、生活状況の理解。
- 生活習慣や文化の違いを知る。日本人のいいところを知ってほしい。
- 日本人、外国人も同等に対応する様にする。
- お互いに個人を尊重し合い、理解すること。
- 地域の人たちが積極的に声かけをするなど、コミュニケーションが大切だと思う。その上で外国人の人たちは地域の一員であることを認識し、地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加することだと思う。
- 両親や子供達を残して日本でがんばって働いている人達が沢山いますが、自分が出来る事は何なのか？身近な事から始めています。洋服や文具、野菜等何かできればと行動しています。時には私が電話して一緒にお茶等して最近の事など聞いたり趣味の事を話したりしています。何か困ったこともないか等も聞いて一緒に考えています。
- コミュニケーションを増やす事により、必要とする言葉の意味を少しずつでも理解出来る様になり、信頼関係も生まれて来る。お互いに勉強する事が大切です。
- お互いの文化を尊重する気持ちが必要。
- お互いに理解し合う。
- お互いの生活習慣を理解することが大切だと思う。
- 身近な付き合いが、重要だと思います。行政区や組付き合いを促す、日本人・外国人双方の意識を高める取り組みが必要だと思います。
- お互いの生活習慣を理解しあう事が大事。
- 迎える側は、対人間同士、偏見持たずに歩み寄る事を努力する。

外国人市民への支援等

- ・袋井市等へ行くと英語、ポルトガル語等の外国語の説明があるが（公園等々）、新城市は少ないような気がする。
- ・お店や公共の場の案内表示等を、外国の人も分かるように、その国の文字で表記してあげるといいと思う。英語や、ローマ字ではよく表記してあるけど、新城市にはスペイン語や中国語の人も結構いっぱいいると思うので。
- ・地域ブロックもしくは、エリア設定を設けて、言語堪能で人柄がよい方を、仲裁役に適した担当者として配置しては？ボランティアではなく、採用しては？
- ・外国人が病気になり、生活に困窮することがあったときに、気軽に相談できる場所が必要だと思います。困ったことがあったら図書館のようなところで情報のやり取りが自由にできればいいと思います。
- ・文化の違いや理解不足で困りごとが発生した場合に、相談できる窓口が市役所内にあればいいと思います（もうあるかもしれませんが）。
- ・行政側では、外国人が参加するイベントや活動を企画、支援する必要があると思う。
- ・市役所に気軽に外国人の方がお茶しながらでも、話が出来る場所があるといいですね。

外国人市民への生活ルール等の周知等

- ・ゴミ出しルールの徹底。
- ・日本の法律、習慣を理解してほしい。日本語を学んでほしい。
- ・生活ルールを守ってもらいたいですし、あと、ゴミ出し方も守ってもらいたいです。地域の活動をやってもらいたいです。
- ・お互いに生活習慣の違いなどを知った上で、生活ルールを理解してもらい、トラブルが起きないようにしていかないといけないと思います。
- ・就労ならば、受け入れ機関と職場で日本のルールを教えて欲しい。
- ・日本と外国では文化的背景が異なることは理解できても 共存するとなれば、例えば自分の居住地の燃えるごみ捨ての場所に収集日ではない時に置いてあるなど、近所の話聞くにつれ、その時点で先入観が出来てしまったりということがあり、やはり日本で生活するという上でのルールを理解して実践して近くなるということが必要なのではと思います。
- ・郷に入っては郷に従え。基本的に、外国人がこちらに合わせる努力が必要だと思います。

外国人市民の受入れ等

- ・アンケートをとりました（手続は踏みました）から、単に外国の方を増やしていくのは困ります。治安が心配。
- ・地域に外国人が暮らしはじめた時住民と外国人をつなぐ役割の出来る人をあらかじめ作っておく。受け入れ側のロールモデルを作り、実行しやすいようにする。

その他

- ・山村部に生活しているので、外国人と接する機会が少ない。
- ・日本人だけでは対応できないので、外国人の人にお手伝いするように、行政で進める。
- ・おまかせします。
- ・学校で外国人の子を受け入れるなら子どもたちには多少言語に関われる機会がほしい（子どもがポルトガル語で悪口を言われていると感じていた。何を言っているのかを知りたがっていた。）。
- ・外国語。

《70 歳代以上》

交流の機会

- 日常生活の中で、日本の文化・習慣を親切にアドバイスする。それと、相手国の人の文化・習慣を理解して仲良く交流していく。行政としては、両者をマッチングするセンターを用意。例えば、公民館の活用など、市民の身近な場所で気軽に交流できる体制づくりが必要かと思います。
- 日ごろの生活で特に交流しなくてはならない場合はほとんどない状況ですが、災害時などの緊急時の対応のための日常での訓練をとおしての交流はこれから特に必要になるのではないのでしょうか。
- 文化交流。
- 職場への通勤などでは外国の方を見かけますが、ほとんど交流のないのが現状です。まずは自治区単位くらいから、祭りやイベントに参加してもらい、互いに知り合うことが必要かと思う。
- 交流の場を作ることができればいいと思います。
- 市の計画にて交流スポーツ大会等を年に何回か開催し交流を深める
- 定期的に交流の場を設ける
- 以前は交流する機会をもっていました、コロナで中断しました。交流の場をつくってほしいと思う。
- 自治会として交流の機会を作り相手を理解する必要がある。
- 日本の生活習慣や規則を理解してもらうためには、継続的に交流する機会をつくる必要があるだと思います。ただ、地域住民でさえ集まる機会が少なくなっているのでコミュニケーションをとるのは容易ではないと思われます。

相互理解・共生の意識を持つ

- 新城も人口が少なくなっています。外国人の方と一緒に明るく笑顔がいっぱいのまちづくりをしたいです。市民の皆様本気になってがんばりましょう。市長様中心に本気に進めてください。
- 日常的なあいさつから始める。
- このアンケートが届く2日前に母は94歳で旅立ちました。娘の私がわかるところだけ記入し、返送させていただきます。若い頃の母は韓国出身の方からキムチの作り方を教えてもらい、作っていました。そういう人なので、あまり偏見を持たずお付き合いをさせていただくのではないかと思います。また、孫の一人が対出身の方と結婚しました。そして、仲良く信頼し合っている様子でした。
- 相手の習慣を理解する。
- まずは、実際に触れ合うこと。そこから、何かが生まれるでしょう。
- とにかく仲良く暮らしたいです。できるだけ親切にしてあげ、親切にしてもらいたい。困ったことがあったら助けてあげたいし、助けてもらいたい。
- 一言で「わからないから」としていくことはないと思うし、お互い寄り添っていきたいと思うことが大事だと思う。時全体で周りのことを少しずつでもわかり合えていくことが、同じ住民になるには一番必要なことだと思う。
- 友人としての交流・付き合いを深める。
- 先入観を排し、フランクに接する。
- 先入観を持たず、お互い理解し合えば良いと思う。
- 身近なところから仲良くしていくことは大切だと思う。自分ばかりが自由を楽しみながら・・・ではないように。
- 外国人の方をいかに理解するかが第一の問題です。まずいかに顔をお互いに覚え、会話する機会を多く持つかが大切で、お互い理解する早道でしょう。
※市内のまちなかの家ならいいのですが、山奥ではまず考えられないことなので、実現不可で残念です。
- 日本語を覚えてもらう。互いの文化、生活習慣の違いを尊重しつつ少しずつ日本に慣れてもらう。
- 色々余分な事を書きました。世界中には多くの国があり文化、価値観、皆違いますね。世界中の人が皆仲良く出来ることが出来ればいいですね。でもそれは理想だと思います。同じ日本人でもただ二人だけなのにトラブルとなって、離婚する夫婦もいかに多いのかが証明しています。どこの国にも良い人、悪い人では区切れませんが紛争は絶えません。私はその国々の価値観、文化を大切に合せて、やはり自分の国、地域、家庭を大切にすることだと思います。全人類がひとつにはなれないのが現実だと思います。あまりに多様性を求めることは逆にその人の文化、価値観を否定することにも繋がるのではないのでしょうか？どこの国にも民族として大事なものを守る。私たちは日本人だと誇りを持って言いたいです。それは外国籍の人も大切にすることだと思います。
- お互いに理解し合う。

外国人市民への支援等

- ・ 医療や教育面で、外国人にわかりやすい支援が必要。行政にも専門スタッフが不可欠。
- ・ 外国人市民の人たちが日本語を理解できるように、無料で勉強できる場所があるといいと思います。そして、お互いに話し合いができるようになりたい。
- ・ 生活上必要なことを、相手の言語で伝えてあげる。
- ・ 長久手に住んでいるベトナム人のお嫁さんの事ですが日本に来て約1年になりますが、まだ日本語の読み書きは殆ど出来ませんが日常会話は充分出来ます。先日ベトナム語で運転免許を取得する為の仮免合格までの短期合宿の教習所がある岡山まで行きました。同じ組の生徒は10人程でベトナム人は7人でした。先生は早口で訛りもあり、なかなか内容が理解できずに、生徒たちで授業後復習し合ったそうです。困ったのは先生の暴言だったそうです。運転指導も頭に入らない程萎縮してしまったそうで、日本人生徒に対しては親切に対応していて、その不満を涙声で電話で知らせて来ました。息子が教習所に電話をして、指導態度は改まったそうで、仲間からも喜ばれたそうですが、ひどい差別だと思いました。言葉が理解できないと行動も正確に出来ませんので、時間はかかっても解るまで丁寧に取り組むしかないと思います。又、行政の方でも外国人に日本の色々な福利厚生が受けられる事があるのを知らせて欲しいと思います。
- ・ 外国の方が住みやすくなるよう、日本語を覚えて貰う場がもっとあれば良いと思います。

外国人市民への生活ルール等の周知等

日本の生活ルールを守り、日本の文化習慣を理解してほしい。

日本社会のルールを教え、学んでほしい。

ゴミ出しのルールを教えて、同市民として暮らせるようにする。

外国人の方に、日本（この地域）での生活ルール、習慣などを理解してもらうための案内や活動をもっと進めること。外国人の方々の文化や習慣などを理解するための場をもっと市民に提供すること。

ゴミ出しの仕方が理解できていないベトナム人がいる。一方、たしかに、しっかりしたベトナム人もいる。行政は周知の仕方を工夫すべきである。

夜間、転倒した自転車で走ってほしい。

外国人の方に日本の習慣や生活する上でのルールなど、身近に学べて、触れ合える場所があると良い。気軽に誰でも参加できるイベントなど、その中で、習慣やルールなどを理解していただく機会があるとよい。

日本人・外国人共に生活ルールを守る事。これには行政が生活習慣やルールを数多く何回も何回も指導する事が必要。

外国人市民の受入れ等

- ・ 外国人といっても多国籍の方々がおり、また、住環境、来日の目的によっても多種に分かれている。
①外国人の来日目的の把握とその対応 ②派遣会社経由の方々には、派遣会社へのアプローチと協働体制構築 ③結婚等永住者への対応 ④単身来日者（個人的に）の対応
以上、実態に即した対応が必要です。
- ・ あらゆる機会をとおして、移住を呼びかけ、市民の社会増をはかる。
- ・ 特に外国人の生活に対しては注文はないが、地域によっては生活全般に対して大都会と違い、身近に生活しているため、早く地域の生活習慣及び風習に馴染むよう、地域住人が親しく接するよう心掛けたい。
- ・ 言葉の壁が1番だと思います。仲良くしたくても、会話ができませんと前に進まないと思います。外国の方は事情があって日本に来て働いていると思います。テレビで、この会社にずっといたい、楽しい、みんないい人、と言っていると喜んでいての方を見たとき、こちらの接し方、受入れができれば、このまちに来てよかったと喜んでいただけたらと思います。

その他

- ・ 身近での交流がないため、実感が湧かない
- ・ 外国の方とよくあいさつをしたり、会話をする。日本語を上手に話すことができるようになったら、帰国してしまうので、残念である。
- ・ ベトナム語は習得が難しい。特に発音。
- ・ 行政の取り組みの接する場面を見たことがない。
- ・ 情報誌などに出身の文化、習慣を紀行してほしい。
- ・ 外国の方が畑を借りて野菜等を近くで一人で作っている。一生懸命働く姿を見ており、また、地主も「荒れ畑が助かる。」と言っている。よい光景。スーパーや公共の場で外国の若者が日本になじもうとする姿をよく見かけ、声をかけるときもある。

- 特にありません。
- 自宅から300mくらいのところに派遣会社の寮があり、男女合わせて10名以上の人がいると思いますが、朝7時～8時前、夕方に自転車で通勤しています。道で顔を見れば、おはよう、さようならと声をかけます。相手からは返事があつたりなかったり。返事のあつたときは気持ちがいいので、私からは声をかけます。
- 自然体。
- 今後も外国人との交流はないので、このまま生活していきます。
- これは個人的な行政への想いですが、やはり鳳来支所にも国旗を出すことを希望します。外国の方の在住者も増えてることもあるので。
- 毎朝数人自転車で工場（職場）へ通う若い人が道で会うとあいさつをしてくれる。言葉をかけた事はないが手を挙げる程度です。
- 外国人の文化・意識を理解するのは難しい。例「落とし物」、日本人は自分のものではない、という認識はあたりまえ。外国人にはその認識は期待できない。例「約束」 …で待ち合わせる。来ない。何回もあった。そういうことさという知識になった。だます奴、だまされる奴、日本人はだます奴が悪い。だが外国人文化はだまされる奴の方が悪い。女の子でも「もっとケツを振って歩け。そうでないと男をゲットできないぞ。」これがアタリ前。日本人、もっとたくましくならないとヤラレちゃう。
- 外国人が借家の場合の行政の取組がわからない。

Ⅲ 調査票

(住民)



多文化共生に係る日本人市民アンケート

アンケートにご協力いただきありがとうございます。
アンケートはオンラインでも回答できます。●●●●●



Q1 年齢

- 10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳代以上

Q2 性別

- 男性 女性 その他

Q3 住んでいる地域

- 新城 千郷 東郷 舟着 八名 行政区名
鳳来中部 鳳来南部 鳳来北西部 鳳来東部
作手

Q4 外国人市民との付き合いはありますか（ありましたか）？

- ある（あった） ほとんどない まったくない

※Q4で「ある（あった）」「ほとんどない」を選択した方にお聞きます。

Q4-1 付き合いがある（あった）のはどのようなときですか？（いくつでも）

- 仕事や職場において 友人・知人として 近所づきあいで
学校・子ども園などの教育の場において 行政区や子ども会などの地域活動の場において
その他（_____）

Q5 地域の外国人市民との関係で困った経験はありますか？（いくつでも）

- 言語の問題でコミュニケーションが取れなかったこと
ゴミの出し方など生活のルールに関すること 家・部屋からの物音や騒音のこと
子どもの行動やほかの子どもとの関係のこと 駐車・駐輪のこと
集合住宅などの共有スペースや公共の場所の使い方のこと 特になし
その他（_____）

Q6 地域や職場に外国人市民が増えることで、地域社会にどのような影響があると思いますか？（3つ以内）

- 外国のことはや文化・生活習慣に触れる機会が増える 社会に多様性が生まれる
外国人の友人をつくる機会が生まれる 人口が増えてまちに活気が出る
文化や習慣の違いからトラブルが増える 住環境や治安が悪くなる
日本人の仕事が減る 影響はない
その他（_____）

**Q7 同じ地域で外国人市民と生活していくうえで大切なことは何だと思
いますか？（3つ以内）**

- あいさつやことばを交わす 生活習慣をお互いに理解する
文化や価値観の違いを知る 先入観を持たない
交流や話し合える場を設ける わからない
その他(_____)

Q8 日本人から外国人市民に対する偏見や差別があると感じますか？

- まったくないと思う あまりないと思う よくあると思う わからない

※Q8で「あまりないと思う」「よくあると思う」を選択した方にお聞きします。

Q8-1 どのような場面で偏見や差別を感じますか？（いくつでも）

- 市役所などの公的機関での手続きのとき 友人・知人として交流するとき
近所の人との付き合いの中で 住まいを探するとき
自分や家族と結婚するとき 社会保障制度において
電車・バスなど公共の場において 学校などの教育の場において
職場において
その他(_____)

**Q9 地域で外国人市民と共に暮らすために外国人市民に望むことは何です
か？（3つ以内）**

- 日本の文化や習慣などを理解してほしい 日本の生活ルールを守ってほしい
日本語を理解できるよう学んでほしい 地域の行事やイベントなどに参加してほしい
母語や文化を紹介してほしい 行政区への加入など地域の役割を担ってほしい
特にない
その他(_____)

**Q10 外国人市民と共に暮らすために、自分ができることは何だと思
いますか？（3つ以内）**

- 地域の外国人とあいさつをするなど気軽に交流をする
生活習慣や文化の違いなどを学び、理解する 日本の文化・ことば・料理を教える
生活習慣やルールを話し合う 外国人と交流できるイベントに参加する
避難訓練や清掃など、外国人と一緒に地域の活動に参加する
通訳や翻訳、日本語教室などのボランティアに参加する
特にない
その他(_____)

Q1 1 外国人市民と今後どのような交流をしたいと思いますか？（3つ以内）

- 外国人市民から出身国、地域の文化や習慣を学びたい
- 一緒に地域のイベントに参加したい 一緒にボランティア活動をしたい
- 家庭のことや子育てについて相談や情報交換をしたい
- 友だちづきあいをしたい 外国人市民に日本の文化や習慣を紹介したい
- 交流したいとは思わない
- その他(_____)

Q1 2 地域で外国人と共に暮らすためにどのような取組が必要だと思いますか？（自由記述）

(日本人市民の取組、外国人市民の取組、行政の取組など)

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

IV 調査結果

(行政区長)

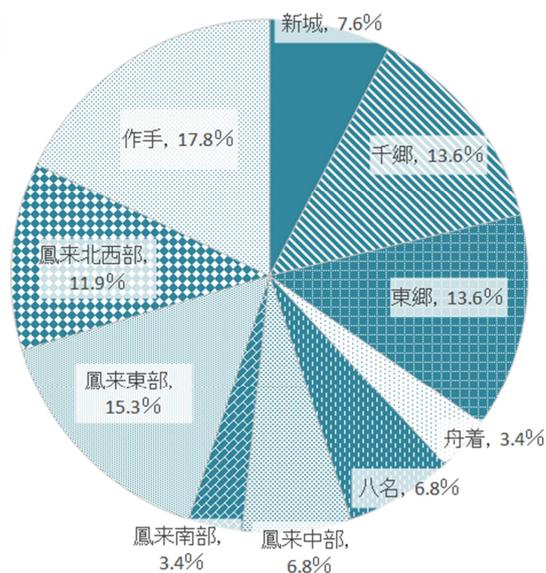
行政区域内の外国人住民について

1 行政区

136 の行政区のうち、118 の行政区から回答がありました。

n=136

地域自治区	区 (回答数)	% (回答数 / 回答数合計)	参考(R5. 5. 1現在)	
			行政区数	%
新城	9	7.6%	9	6.6%
千郷	16	13.6%	17	12.5%
東郷	16	13.6%	17	12.5%
舟着	4	3.4%	4	2.9%
八名	8	6.8%	10	7.4%
鳳来中部	8	6.8%	9	6.6%
鳳来南部	4	3.4%	5	3.7%
鳳来東部	18	15.3%	22	16.2%
鳳来北西部	14	11.9%	15	11.0%
作手	21	17.8%	28	20.6%
合計	118		136	

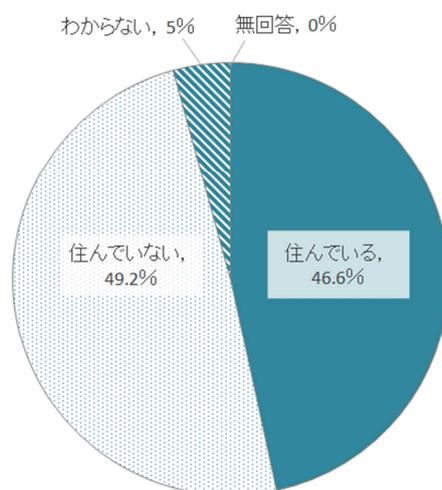


2 行政区域内に外国人住民は住んでいますか？

「住んでいる」が 46.6%、「住んでいない」が 49.2%、「わからない」が 4.2%となっています。

n=118

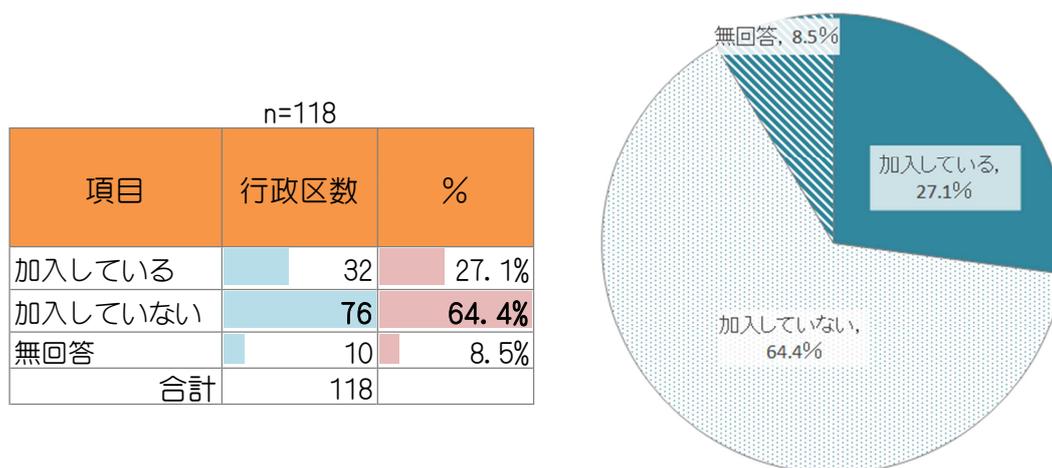
項目	行政区数	%	参考(R5. 5. 1現在)	
			行政区数	%
住んでいる	55	46.6%	87	64.0%
住んでいない	58	49.2%	49	36.0%
わからない	5	4.2%	-	-
無回答	0	0.0%	-	-
合計	118		136	



※特別永住者含む

3 行政区に外国人住民は加入していますか？（町内会のお付き合いはありますか？）

「加入している」が 27.1%、「加入していない」が 64.4%となっています。



ヒアリング調査で出たコメント

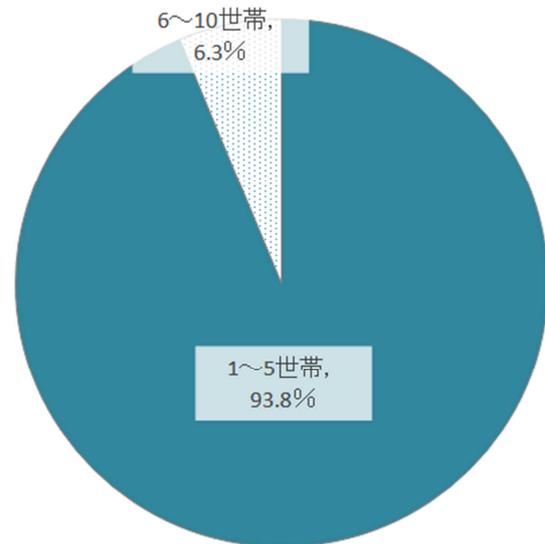
- 全員ではないが、加入している。
- 日本人住民の高齢化が進んでいるため、外国人にも組長をやってほしいと思っており、断られることもあるが、やってくれる人もいる。
- 組長をやってくれる外国人にお願いして、他の外国人に情報共有することもある。
- 雇用促進住宅及びその周辺に外国人住民が集住しており、現在は行政区に加入していないため、区費の支払もなく、区の財源も心配。
- 日本人も含め、住民の4分の1は行政区に加入していない。
- 外国人はほとんど加入していないが、一部子どもがいる世帯が加入している。
- 子育て世帯が加入している。区費も払っているし、区の作業等も出てくれる。
- 農場に技能実習生が13人おり、個人としては行政区に加入していないが、会社として区費を払っている。実習生は会えばあいさつもする。

3-1 何世帯くらい加入していますか？わかれば国籍も教えてください。

外国人住民が行政区に加入している行政区のうち、「1～5世帯」が93.8%、「6～10世帯」が6.3%となっています。

n = 32

項目	行政区数	%
1～5世帯	30	93.8%
6～10世帯	2	6.3%
11～15世帯	0	0.0%
16～20世帯	0	0.0%
20世帯以上	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	32	



ヒアリング調査で出たコメント

- ブラジル人住民で、区内で通訳をしてくれている。
- 中華料理店を営んでいる中国人世帯が加入している。
- ブラジル人家族が加入している。
- タイの技能実習生が会社に勤めており、会社として区費を納めてもらっている。

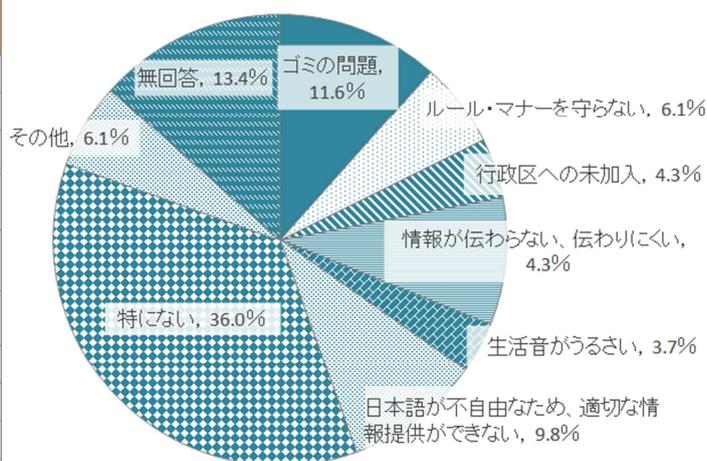
外国人市民に関する困りごと、地域住民からの苦情などについて

4 外国人市民の対応について、困っていること（または過去に困った経験）はありますか？（複数回答）

「特にない」が36.0%と最も多く、次いで、「ゴミの問題」が11.6%、「日本語が不自由なため、適切な情報提供ができない」が9.8%、「情報が伝わらない、伝わりにくい」が9.1%と続いています。

n = 118

項目	行政区数	%
ゴミの問題	19	11.6%
ルール・マナーを守らない	10	6.1%
行政区への未加入	7	4.3%
情報が伝わらない、伝わりにくい	15	9.1%
生活音がうるさい	6	3.7%
日本語が不自由なため、適切な情報提供ができない	16	9.8%
特にない	59	36.0%
その他	10	6.1%
無回答	22	13.4%
合計	164	



「その他」の内容

休日に宿泊に来ていた外国人の声・音が大きかった。；ゴミ問題となるかもしれないが、ゴミの処理をどうしているか不明。；過去には情報が伝わりにくかったが、現在はあまり支障はない。；今のところなし；外国人が転入して間もないため。；草取をしない。；仕事の都合で行政区の活動に参加できない。世帯の中で日本語が分かるのは中学3年の長男のみで、コミュニケーションが取りづらい。；行政区未加入では、特に積極的に関わりはない。；資源収集の分別の仕方が十分でなかったが、何回か経験するうちに改善してきた。；実習先である法人の指導がしっかりしている。；中国人世帯が1~5世帯いる。；つい最近弁当が食べられたことがあった。；他行政区の外国人が資源回収ごみを持ってきた（2回）。

ヒアリング調査で出たコメント①

- ごみ問題については、分別ができていない、市指定の袋を使用していないことがある。ただ、それが外国人だという確証はない。その際には、区の役員で開封して分別し、指定の袋に入れ替えている。
- 別の区の外国人が、区の集積所にごみを持ってくることがあった。その場に区長が居合わせていたため注意した。
- ごみ収集車が行ってしまった後にごみを置いていく外国人がいた。
- 資源ごみ回収場所に日本語で注意喚起している。

ヒアリング調査で出たコメント②

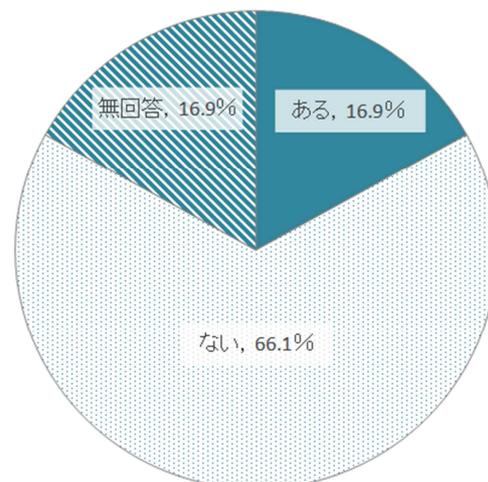
- 行政区に加入していないこともあり、ごみ当番も出てくれない。それでも区の集積所にごみを持ってくるが、分別がされていない。当番の人が気付けばその場で引き留め、一緒に分別をする。
- 組には入っていないが、区の集積所にごみ出しには来る。分別は概ねされていることが多い。技能実習生等は、企業がしっかり指導しているのではないか。また、市のごみ分別に関する多言語チラシを見ているのではないか。
- ごみ問題は一番困っている。曜日も分別もばらばらで、資源回収に出すべきものも燃えるごみとして出している。市の担当課へ相談し、人が特定できれば指導してもらっている。ただ、改善はあまり見られていない。
- 駐車スペースではないところに駐車している外国人がいる。住人の車が通るスペースなので、危ないという声もある。本人に何度か注意したが、ごまかされている。
- 日本の常識と違うところもあるが、それは海外で育っていればそういうものだと思う。
- 夏に向けて、集まってBBQをすることが多い。その際に、あまり周りを気にせず騒いでいる。
- 行政区に加入しない理由として、広報紙が日本語で読めないということが大きいように感じる。
- 区としては外国人に関して困っているという実感はない。
- 現状、お互い差し障りのないよううまくやっている。

5 外国人市民に関する内容で、地域住民から意見や苦情などはありますか？または過去にありましたか？

「ある」が 16.9%、「ない」が 66.1% となっています。

n = 118

項目	行政区数	%
ある	20	16.9%
ない	78	66.1%
無回答	20	16.9%
合計	118	



「ある」と回答したうちの具体的な内容

休日に宿泊に来ていた外国人の声・音が大きかった。；住んではいないが、ある会社の保養所のように毎週末グループで一軒の家にやってくる。騒音やおい等で近隣の人がいろいろ注意しても、毎回人が変わるのではどうしようもないらしい。；可燃ごみの中に不燃物が入っていることは時々あるが、外国人によるものなのか否かは不明です。；過去には、伝わりにくいという言葉の弊害がありました。；ごみを分別して出さないことがあった。

植えた木が大きくなりすぎて周りの景観が悪くなった。；庭先で大音量で音楽を流す。資源回収でのごみの仕分けがされていない。資源回収の時間が守られていない。；ごみの問題。前年は粗大ごみを勝手に放置していた（ベッド、マットレス、椅子等）今年度は可燃ごみ回収で空き缶を放置していた。；鳥原区を自転車通勤していて、タバコ、ゴミ捨て、自転車急に変更していることがある。；曜日に関係なくごみを出す。燃えないごみも出す。；企業の社宅と思われるが、ごみ収集に対して分別ができていないので市役所の環境課に相談した経過がある。現在はトラブルはない。；地域の活動への協力依頼への関心が極めて薄い。；ごみの個人処理が十分にできていない。；町内組織への無関心。それが町内組織全体に影響を与えることもあった。；ごみ出しの曜日以外に出していたことが多くあった。；夜も遅くまで大きい声で騒いでいた。；子どもが夜中に走り回っていた。；トタン塀に、サッカーボールをぶつけている。；エンジン音が大きい。；他行政区の外国人が資源回収ごみを持ってきた（2回）。；10～5年程度過去に、「ゴミ出し・アパート周辺の放置」や「ドローンを民家近くの堤防で飛ばす」などあったが、解決済み。；当地区在住者ではないが、資源回収に出せなかった汚れた瓶や缶が神社のすみに捨てられていた。；リサイクル関係の仕事してるようで、リサイクル品が大量にあり環境に大丈夫か心配と言う声もある。；可燃ゴミの出し方について、ルールを守らない。；車の騒音等。；ペットの飼い方⇒愛犬をリードに縛らないで飼う。近所の住民に飛びついたことがある。；屋外でのバーベキュー⇒深夜までやっている。近隣の住民から苦情が総代に寄せられた。；区内にある日本語学校の生徒が、私有地と道路の区別がつかず、通行する。自国語で大声で話す。日本語学校に対処を頼みほぼ解決した。

ヒアリング調査で出たコメント

- 夜遅くまで、外国人が部屋で大きい声で騒いでいた。隣人が注意しに行ったが、威圧的な態度を取られたようであった。
- 団地において、外国人の子どもが夜中に走り回っていたり、トタン塀にサッカーボールをぶつけたりしていた。子ども等が何か危険なことをしている、迷惑行為につながることをしている場合には、その場で注意している。区長から組長に、外国人の子どもでも、自分の子どものように注意するように伝えている。
- 犬を飼っている外国人がおり、お腹をひっかかれたという方や、散歩中の老人に犬が飛びついて老人が転んだということを知った。
- 深夜までBBQをしていた外国人がおり、近隣住民から区長に苦情があった。
- 昔は変な外国人が入ってきて怖いという話を住民から聞くこともあったが、現在は外国人も増えてきており、そのようなこともない。
- 技能実習生が生活圏内を歩く際に、公道と民地の区別がつかず、民地を大きな声でしゃべりながら通行したため、近隣住民から区長に苦情があった。区長から実習生の受入団体へ伝え、対処してもらった。
- 車の騒音、危ない運転をする外国人がいたため、警察に相談し、注意してもらった。完全になくなったわけではないが、目立たなくなった。

外国人市民との共生について

6 地域で外国人市民と共に暮らすためにどのような取組が必要だと思いますか？（自由記述）

交流の機会について

- ・ 祭礼の余興への参加。公民館行事などで自国料理の紹介、試食会等。
- ・ 交流を深める。地域の文化に親しんでもらう。農業を通じて作物を育てながら互いに学ぶ。
- ・ 小さなコミュニティでの活動への参加。
- ・ 交流の機会を設ける。相手を理解し、交流していきたいという気持ちを伝える。
- ・ 地域の行事に参加していただき、人と人とのふれあいを持つ。
- ・ 区に在住している外国人世帯は2世帯と少なく、防災委員が管理する各組の世帯員名簿で外国人世帯が存在することを知らずらいで特段交流はありません。また、区の方から率先して外国人世帯に伺って意見を聴くこともしていません。今後、その世帯に国籍や文化、趣味や娯楽、興味のあることをお聞きし、地域との交流意識を伺い、多文化共生社会を築いていきたいと思えます。また、他地域に在住の外国人同士の交流があるかどうかを調査して、行政が中心となった多文化共生社会を目指してほしい。何か行政で新城在住外国人との交流イベントがあれば紹介してください。
- ・ お互いに声かけ（あいさつ）を常にするによりコミュニケーションが取れるようになり、共に暮らせるものだと思います。
- ・ イベントなどの参加。親との交流機会をつくる。
- ・ 日本の文化、美観に触れてもらえるように近場の小旅行・ドライブ等に気軽に誘う。
- ・ 地元行事に積極的に参加し交流する。
- ・ 出身国を知ってもらう（PRする）ためのイベントを企画し、地域住民を呼んで交流する。
- ・ 区の活動や行事等に参加できるように、声掛けをする。休耕地を無償で貸すなど、生活のサポートをする。
- ・ 同胞だけで固まらず、溶け込む努力や情報発信をし、双方向の交流を図る。
- ・ 交流を増やし、互いを知る機会をつくる。

相互理解・共生の意識を持つ

- ・ 相手の立場で考え、住民と対等に話し合える環境を作ることが大切だと思います。
- ・ こちらからの積極的な対応と、先方からの屈託のない参加を共にできるような状況を作っていく。
- ・ 「個人情報保護」という制約がある中で、地域内の外国人の数とその集団の活動等が把握できていない現状である。共に暮らすためには、まず互いの言語と文化を理解し合うことが必要（当然か...）。各々の母国語（共通語としての英語含む。）と文化を講座やサークル活動で知識を深められるよう、行政側が積極的に働きかけてほしい（すでに実施されているのですが、当方の勉強不足ですみません。）。
- ・ 差別をしない（特に無意識な状況にて）。
- ・ 外国人として特別視をしない（日本人と同等の扱い）。
- ・ お互いの文化を理解する。
- ・ 住民が壁を作らず積極的に声かけをする。外国人も地域行事に積極的に参加し住民と交流を図る。
- ・ 地域住民の全ての人が、快く外国人を受け入れられる寛容の精神を醸成する必要がある。たった一人でも反対する人がいると絶対にうまくいかない。
- ・ 外国人の持つ文化・生活様式を理解しようとする心を持つ。
- ・ 周囲に迷惑をかける行為はさける（他所から仲間を連れてきてどんちゃん騒ぎをする等）。
- ・ 旧愛郷小学校内に住んでいますが、お互い顔が合えば声かけをしたり、おしゃべりもします。日本語OK。資源ゴミの当番日にも参加していただいています。市の配布物資料も届けています。相手の方を思いやる。そんな気持ちで接していけたらと思います。
- ・ ベトナム研修生がアパートで暮らしており、なるべくあいさつしている。
- ・ その人の国民性、宗教等の理解に努め、地域ぐるみで助け合う体制づくりが大切であると思えます。
- ・ コミュニケーションが必要、まずは挨拶から。
- ・ 東南アジア系の外国人が増え、互いが理解できず誤解しているところが多い。広報に多文化共生のトビラの掲載が始まったことは日本人の理解を深めるにはいいことだと思う。

外国人市民への支援等

- ・ 新城市外国人相談窓口の開設を平日（9:00～16:00）だけでなく土日も開設する。※土日全てでなくとも日曜PMだけでも。火水木のいずれかをAMのみとする。
- ・ 案内看板等で注意ポイントの明記。
- ・ 外国人の母国語での情報提供等。
- ・ 外国人の居住期間の長短で対応が異なるが、外国人に住居を貸す人（大家）に、居住者の心得的なものを十分に説明するように伝えてあるが、実際面で生きていない。
- ・ 広報など「日本語で分からない。」とよく言われる。
- ・ 日本語だけでなく、居住している外国人市民の母国語での案内を増やす。
- ・ 外国人が住むことができる住居の確保。
- ・ 困ったら遠慮なく相談してもらおう（そこから交流が生まれる）。
- ・ 日本語教室を設ける。
- ・ ごみの分別等、生活に必要な日本語を外国人が読めるように英語の読み仮名を日本語の分別看板につけるような市役所の取り組み。
- ・ 日本語指導教室を開設し、高校卒業までは丁寧な生活・進路指導をする。
- ・ 在住外国人への広報など考えてほしい。

外国人市民への生活ルール等の周知等

- ・ その地域の風習とか実情を理解してもらえるように住民とのコミュニケーションを取る必要があると思う。行政もそれなりの指導を要す。
- ・ 近年外国人が多く日本に来て生活しているようだ。外国人も集団となっているところもあるようで、日本での生活なのに母国のような生活様式になり、周りが困ることもあると聞く。ことわざにもあるように「郷に入っては郷に従え」というように、日本で生活するには周りの日本人に迷惑がかからないような生活をすべきで、そのようにならぬように厳しい取組が必要である。
- ・ 日本語、生活様式等を勉強させる。
- ・ 行政や会社が地域での生活指導まで行うことが必要と考えます。
- ・ 行政が事業所や派遣会社等に交通・市民ルールの教育を年数回してもらいたい。
- ・ 世帯数が少ない行政区では、困っていることなど皆さんで協力しあえることがとても大切に思います。外国人が共に暮らすことを考えた場合、助け合い、協力し合えることができるかどうかが重要に思います。文化も違い、日本の習慣になじんでもらえるか、マナーも含めて生活できるかどうかと思います。一緒に住む前に、日本の生活など教育や体験をしてもらってから検討してほしいと思います。
- ・ 外国人への最低限のルール、モラル等を伝える。伝えるのは、市の担当者より。地域の区長等では難しいと思います。
- ・ 母国に住んでいると同様の考え方を持つのはやめる（ここは日本）。
- ・ ごみの分別は最低でも3ヶ国語（日本語、ポルトガル語、中国語ぐらい）ぐらいの説明が必要。
- ・ ほかの地区でトラブルになっていると聞きます外国の方にわかりやすい新城市のルールを説明して地域住民とトラブルにならないようにする生活習慣が違うので詳しい説明が必要だと思います。
- ・ 文化生活が異なる事による理解不足。この地域で生活するならば決まり事などは正確に伝え理解しているか再度確認しながらコミュニケーションをはかる。誰も揉めようとは思っていないと思います。理解不足による間違いが地域の人にとっては迷惑な相手となってしまふ。根気強く続けていく。

外国人市民の受入れ等について

- ・ そもそも外国人が日本に来ることには抵抗がある。ルールを守らない外国人は日本に住んではならないぐらいの厳しい取組も必要になる。
- ・ 区内に外国の方が入ってくれたときは、入ってきた人も周りの人もいろいろなことで大変だと思います。焦らず気長に見守りながら話しかけをする。それからいろいろな地域のことを覚えてもらいながらいい意味の「おせっかい」を始めて、区民皆で協力しながら取り組んでいきたいと思っています。これは私が会社で長い間ブラジル人の人と作業してきて思ったことです。
- ・ 外国人市民受入れ大賛成。しかし、受入れのための準備が十分できていない状況で安易に受け入れているように感じる（国・市が情動的に）。少なくとも、外国人市民と真のコミュニケーションが取れる通訳さんとかカウンセラーさん等を先に準備する必要がある（地区コミュニティへの参加。逆もあり。）。現状、我々の目から見れば、外国人市民はほったらかしに見える。
- ・ 防犯カメラを増やす。犯罪者は本国に帰す。入国を制限する。

コミュニケーションについて

- ・日本語が話せ、読めること。会話が必要。
- ・コミュニケーションをどうやって取るのか。各国語のガイドブックや翻訳機など必要になるのでは？
- ・言葉の壁の解消が必要。同時通訳機（ポケトークなど）の配布で、通訳人がいなくても少しは隣人、行政区とのコミュニケーションが取れると思います。
- ・コミュニケーションを取るのが難しいため（日本語が話せないため）、通訳が必要となるときがあるので、外国人対応のできる人を常時置いてもらえると、そこに連絡し通訳してくれるれば対応は可能となる。
- ・言葉が分かればコミュニケーションがとれてうまくいくと思う。
- ・高齢化が進んでいるので、外国人と積極的に意思疎通ができる人がほぼないと思われる。したがって、コミュニケーション能力を持った人の確保。
- ・外国人との意思疎通で困ったときの手助けができる人（通訳ができる人）を決めておく。
- ・外国人が参加できるようにそれぞれの行事を母国語で説明できるようなシステムが必要だと思います。色々な行事をとおして交流を深めることが地域の安全につながると考えています。
- ・お互いのコミュニケーションが取れば、ほとんどの問題は解決できると思う。外国語を話せる通訳の人が対応できるような体制を今後も継続していただきたい。
- ・通訳やサポートできる人や組織を拡充する。外国人市民を市職員に積極登用する。

その他

- ・外国人が住んでいないため現状で分かりません。
- ・一戸建て住宅に住む外国人7世帯が区に加入しています。区には地域を更に28分割した「組」の組織があります。その中で近隣住民との交流もあり、問題なく生活をしていると思います。今年度は、うち2世帯が組長を担当しています。言葉の問題など分かりにくいことは近くの人が助けあっているようです。一方、アパートに住まわれている方については、区では詳細は何も把握できていません（日本人を含めて）。組に所属していれば、資源回収当番・クリーンフェスタ・公民館掃除など否応なく参加しなければならない。また、回覧板による情報も得られ、交流も生まれやすいのですが、アパートの場合、これらが無いので難しいです。どのような取組が必要か自分でもまだ分かっていない現状です。
- ・勤務先との連携が必要だと思う。
- ・労働力人口の現状と、将来の推移からすると、ますます受入れに関し高まると想像ができます。しかし、共生するに当たり、どのような取組が必要かは正直分かりかねます。地域的に保守的であり、風土としてどうなのか？日常生活における言葉の問題、生活習慣・文化の違い等々、相互の問題。共生を前提とした場合、「区」及び最小自治単位での「組」として課題と思われるもの。金銭面について。区費納付はどうなるのか。最小自治単位の「組」に係る組費（字費）、祭礼寄附はどうなるのか。地域行事への参加はどうなるのか。全世帯に協力を求めて道路保全のための道づくり（高齢世帯は共同施設の清掃）、資源回収当番、お宮掃除等。意思伝達方法。定例開催している区及び組の会議・集会の内容の伝達。役員選出。区役員をはじめ、組役員は対象とするのか、対象外なのか。子育て世帯では、こども園、小学校、中学校の保護者・PTA活動と役員選出は。
- ・郷に入っては郷に従え。特別扱いする必要はない。
- ・ベトナム人について、国勢調査時には苦勞した経験があります。会社で一括できるようになればと思いました。
- ・区費等の負担には無関心。行政で自治組織への説明も力を入れてほしい。
- ・実態把握ができない状況であり、雇用主もしくは行政から、行政区への連絡（情報）がいただけないか。
- ・休耕地を積極利用して農業経営をする等、地域住民の理解が得やすい活動をする。
- ・聞く人がいない・わからないだけで、ちゃんと話せば理解してくれる人達だった。その後、企業さんが引き受けて半年くらいで住人が入れ替わるようになったが、指導も企業さんがするようになり、問題は解消した。
- ・1,129人の外国人が新城市内に居住しているとあるが、区内に何人居住しているのか、区として把握できていない。外国人でなくても、アパート等に居住していれば、区や組にも入っていない人がほとんどで、共に暮らすといっても情報不足で、取り組みようがない。

ヒアリング調査で出たコメント

- 外国人にも積極的に声かけをしている。
- 外国人との共生のメリットは、市民の心（考え方）が豊かになること。
- 外国人に地区の運動会や防災訓練に参加してもらえれば、顔見知りになり、そこから色々な交流が生まれるかもしれない。それは、災害発生時等の備えにもなる。
- 外国人に地区の行事に参加してほしいときは、回覧板で周知できる（書記が回覧板を作成しており、アプリ等を使用して多言語に翻訳できる。）。
- 区内に技能実習生や留学生が多く住んでいるが、1ヵ月スパン程度で入れ替わってしまうため、地域で積極的に交流というのは考えていない。
- 日本人が高齢化しているため、外国人にも担い手になってほしい。
- 以前、回り番で外国人に組長になってもらったことがある。その方は日本語がほとんど話せなかったため、周りの人がかなりフォローに入っていた。周りの人等の環境によってだいぶ変わると思う。
- 外国人には、日本を好きになってもらうことが重要。そうすれば、より地域に根付いてくれるだろうし、母国に帰っても周りに良い口コミが広がる。そのためには、外国人にも配慮しているという姿勢を見せることが必要。
- 日本人も外国人も同じ人間なんだから、同様に接すれば良い。
- 外国人でも、カタコトでも日本語が話せれば、話は通じる。
- 日本人も外国人も、困ったときに相談できる場所があると良い。
- 広報紙を多言語化する。多言語化したものを市のホームページ上に載せるのも良いが、紙の方が、それを回覧することで、区内での交流のきっかけとなる。人との交流が地域の基礎。
- 地域で日本人と外国人が話し合うときに、国際交流協会などから通訳を派遣できると良い。
- ルール等について、伝えるべきことはちゃんと伝える。
- 外国人などで行政区に加入していない人のごみの問題は、区が努力していくこと。受け入れる姿勢を見せ、分別方法なども指導したうえで、それでもなお問題を起こすようであれば、それは問題。でもまずは受け入れることが大事。

V 調査票

(行政区長)



多文化共生に係る日本人市民アンケート(行政区長)

アンケートにご協力いただきありがとうございます。
アンケートはオンラインでも回答できます。



Q1 行政区

_____区

Q2 貴行政区域内に外国人市民は住んでいますか？

住んでいる 住んでいない わからない

Q3 貴行政区に外国人市民は加入していますか？

加入している 加入していない

※Q3で「加入している」を選択した方にお聞きます。

Q3-1 何世帯くらい加入していますか。わかれば国籍も記入してください。

1～5世帯 6～10世帯 11～15世帯 16～20世帯 20世帯以上

国籍(_____)

Q4 外国人市民の対応について、困っていること(または過去に困った経験)はありますか？(いくつでも)

ゴミの問題 ルール・マナーを守らない 行政区への未加入

情報が伝わらない、伝わりにくい 生活音がうるさい

日本語が不自由なため、適切な情報提供ができない

特にない

その他(_____)

Q5 外国人市民に関する内容で、地域住民から意見や苦情などはありますか？または過去にありましたか？

ある (具体的な内容を記載してください。)

ない

(裏面に続きます。)

Q6 地域で外国人市民と共に暮らすためにどのような取組が必要だと思いますか？（自由記述）

（日本人市民の取組、外国人市民の取組、行政の取組など）

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。